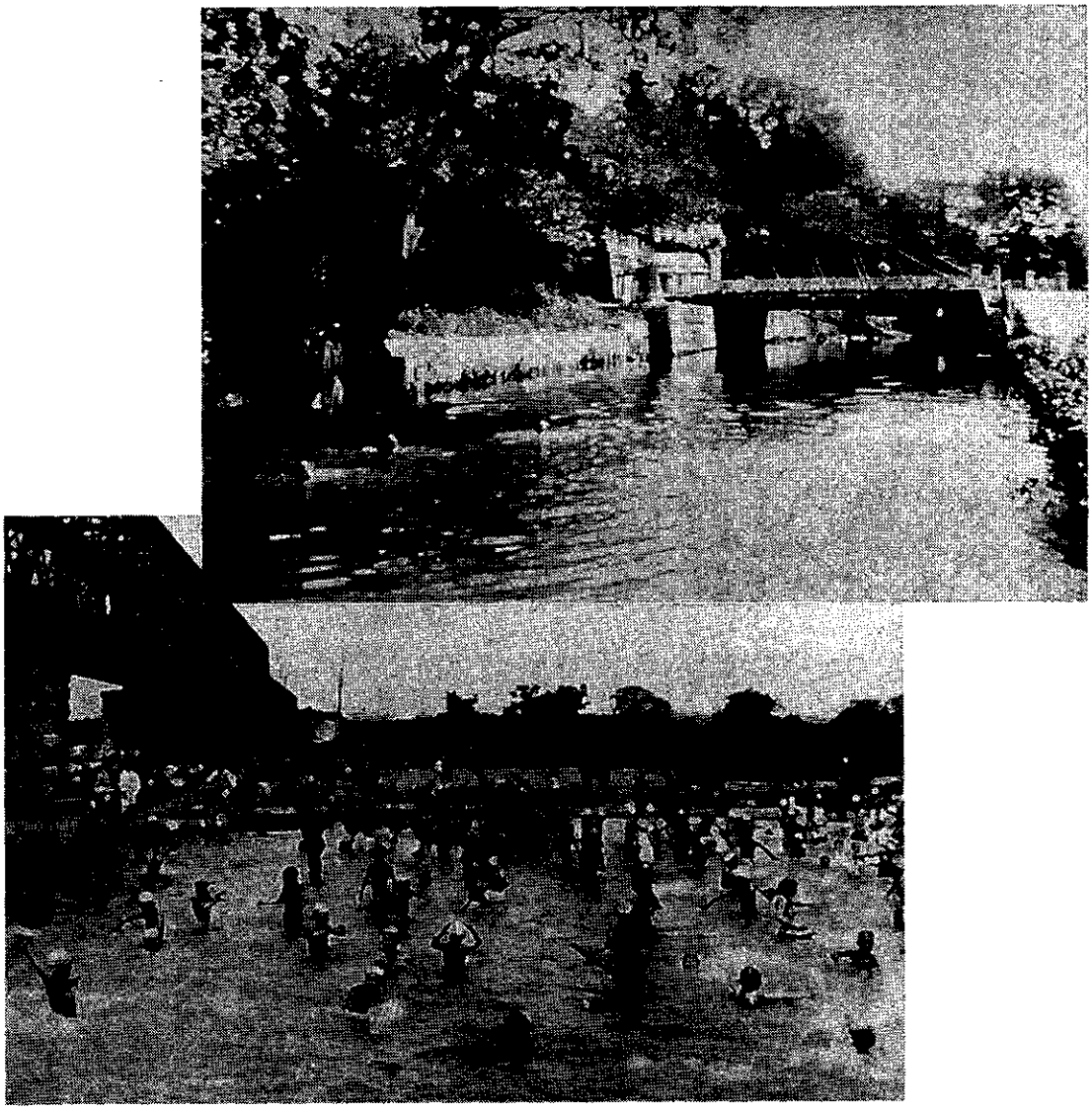
市民による身近な環境調査

「今と昔の湧水調査」報告書



川越市立博物館提供

川　越　市

目　次

1．調査の目的 …… 1

2．調査の方法 …… 1

3．募集期間 …… 1

4．調査の結果 …… 2

5．個別情報 …… 4

6．湧水に関係する地名 …… 39

7．水車、弁財天、くりから不動 …… 40

8．湧水に関係する民話、伝説 …… 41

9．湧水に関する市民の取組 …… 42

10．湧水に関する本市の施策 …… 43

11．まとめ …… 44

1．調査の目的

この調査は、市民環境調査の一環として、川越市内全域の今と昔の湧水の状況を把握し、湧水復活に向けた取組の基礎資料とすることを目的としています。

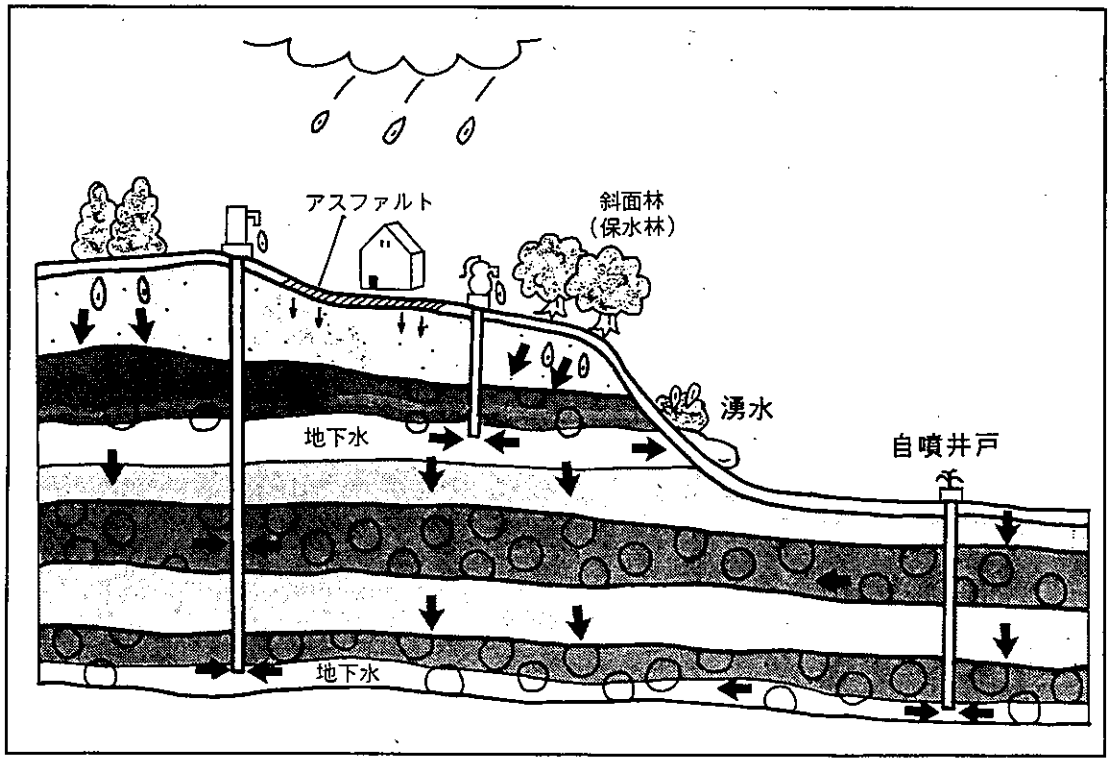
2．調査の方法

広報等を通じて市民の皆さんに呼びかけ、湧水についての情報を募集しました。内容は次のとおりです。

(1) 今、湧いているところ
(2) 昔、湧いていたところ
(3) 昔の湧水池の写真
(4) 湧水に関して「思うこと」「思い出」

3．募集期間

平成9年10月～12月



湧水と自噴井戸の模式図

4．調査の結果

募集に対し、87名の方々から情報が寄せられました。それらの情報とその他地域の資料等も含めて、川越市内の湧水は、156ヶ所があげられました。そのうち、「今、湧いているところ」26ヶ所、「昔、湧いていたところ」130ヶ所となっています。

これを、川越市を地形により8つに区分し、それぞれの湧水の箇所数は、以下の表の通りとなります。

地形区分ごとの湧水箇所数

地形区分	今	昔		計
	湧水	湧水	自噴井戸	
A．坂戸台地（入間台地）	11	9	0	20
B．飯能台地（入間台地）	5	15	2	22
C．入間川扇状地	0	34	0	34
D．川越台（武蔵野台地）	7	24	1	32
E．不老川面（武蔵野台地）	1	1	1	3
F．寺尾台（武蔵野台地）	2	6	0	8
G．大井台（武蔵野台地）	0	5	0	5
H．荒川低地	0	5	27	32
計	26	99	31	156

【参考】川越市の地形区分

A．坂戸台地（入間台地）
入間台地とは、入間川、越辺川、および高麗川によってつくられた扇状地性の台地。
坂戸台地は、外秩父山地を南東方向に流下し、山地東縁の日高町高麗本郷付近で、流路を直角に曲げ、北東方向へと流路を変えている高麗川の南側（右岸）に発達した古い扇状地。

B．飯能台地（入間台地）
西は外秩父山地、北は高麗丘陵と小畦川、そして南側は入間川の崖で限られた入間川左岸の台地。

C．入間川扇状地
南方を川越台地に、北方は飯能台地に、そして東方を荒川低地に囲まれた入間川沿の一段低い低地面。

D．川越台（武蔵野台地）
武蔵野台地は、古多摩川の扇状地として発達したもので、埼玉県の南西部から東京の西方域に広がる。
川越台は、青梅の東方から狭山市域に広がる金子台の北東縁につながる台地。

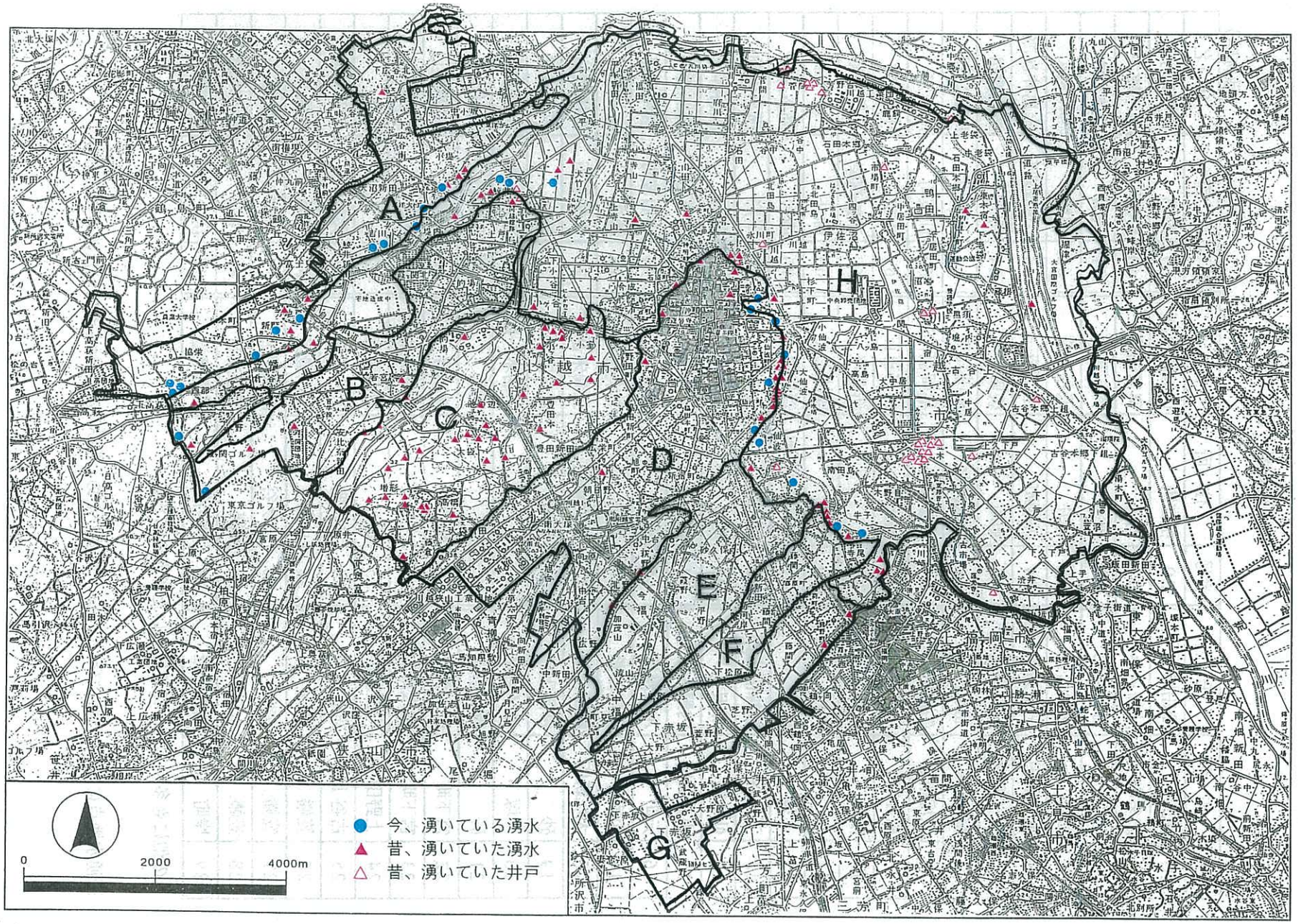
E．不老川面（武蔵野台地）
青梅市新町付近から北東に細長く延びる地形面であり、北縁は金子台と川越台に、また南縁は大井台に接して、東縁は荒川低地で限られる。

F．寺尾台（武蔵野台地）
不老川面の中央部の中福受水場付近を頂とした2～3mの標高差を持つ小規模の細長い微高地面。

G．大井台（武蔵野台地）
不老川面の南部に位置する台地。

H．荒川低地
東側を大宮台地に、西側は武蔵野台地に限られ、北は熊谷市の南部から、南は川口市南部の県境までの広範囲に分布する。

「地下をさぐる－川越地盤図－」川越市より



川越市の湧水分布図

5．個別情報

調査者一覧

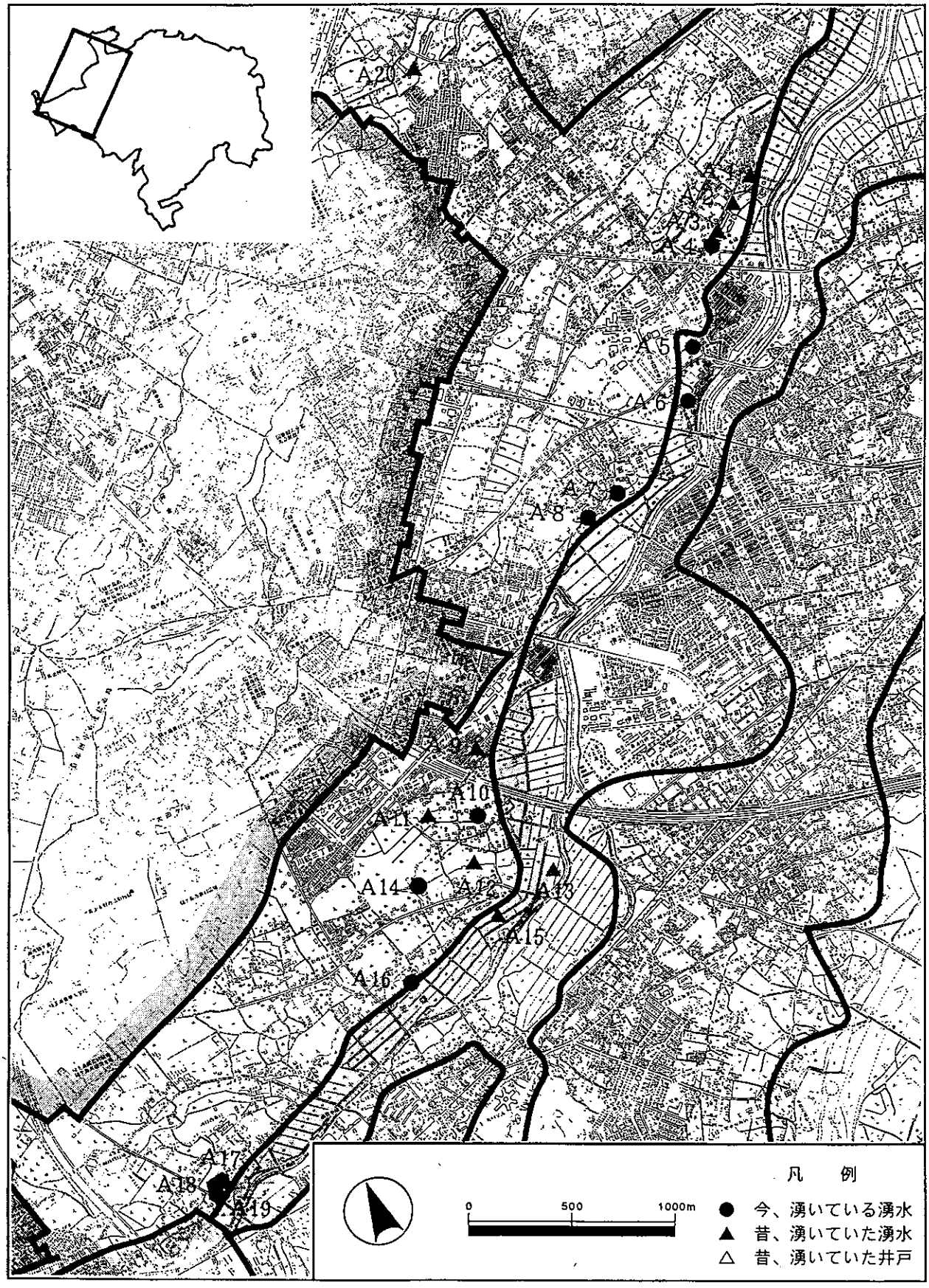
（敬称略）

番号	住　所	氏　名	番号	住　所	氏　名	番号	住　所	氏　名
1	菅間	澤田精一	30	松江町	佐久間勇次	59	松郷	筋野京子
2	志多町	藤崎きみ	31	増形	奥富七郎	60	野田町	山下敏夫
3	的場	若野八郎	32	小室	皆川秀一	61	山城	橋本周六
4	通町	松崎公男	33	鯨井	渋谷一雄	62	山城	柳川利夫
5	大袋新田	田中秀明	34	神明町	山下精一	63	小仙波町	永島仲次郎
6	霞ヶ関北	小野寺雅樹	35	旭町	荻野将信	64	新宿	栗田雅男
7	富士見町	島田友行	36	並木新町	田端邦彦	65	上寺川	時田里司
8	大塚新田	牛窪恒夫	37	仙波町	福岡福代次	66	仙波町	原光宏
9	松江町	平子信夫	38	脇田町	渋谷善正	67	小堤	中島洋
10	鴨田	大野　嘉重	39		新井隆	68	下新河岸	島田利昭
11		男性	40	的場	堅木芳雄	69	鯨井	田中一誠
12	大袋	横山	41	松江町2丁目	戸田喜一郎	70	南台	高木克弘
13	下広谷	長峰信太郎	42	脇田町	土金博	71	増形	溝呂木勤
14	仙波町	柳沢	43	的場	青木甫	72	藤倉	関谷昇一
15	小仙波町	内野大蔵	44	城下町	山崎正男	73	宮下町	高柳晋平
16	元町	木下雅博	45	平塚	安田滋	74	小仙波町	岩澤幸嘉
17	小室	間仁田勇	46	大袋	岸傳治郎	75	池辺	嶋村恵
18	大塚新田	鎌田常雄	47	天沼新田	長嶋栄吾	76	大袋新田	高橋道弘
19	砂	常岡重蔵	48	笠幡	水村宣治	77	渋井	石川義雄
20	平塚	池ノ谷富造	49		小名木一郎	78	古谷本郷	秋山千鶴子
21	砂	菅野留吉	50		沼田	79	下老袋	関根類千
22	宮下町	細田勇蔵	51	的場	鈴木昇	80	笠幡	大室歳江
23	宮下町	根本可哉	52	大仙波	加島実助	81	小ヶ谷	松島昭子
24	上野田町	内田茂雄	53	池辺	佐藤新吉	82		男性
25	古谷上	泉名久男	54	久保町	新井清子	83	大袋	相原辰雄
26	笠幡	原島	55	小堤	小川豊美	84	的場	高橋善一
27	笠幡	女性	56	小ヶ谷	高橋初男	85	寺尾	神田正一
28	笠幡	水村清次郎	57	増形	関根友吉	86	今福	宇津木茂治
29	岸町	國田正雄	58	神明町	荻野泰造	87	富士見町	石山啓子

この他にも多くの方々にご協力いただきました。

※湧水地点については、プライバシー保護のため、個人名は伏せさせていただきました。

A　坂戸台地（入間台地）



坂戸台地（入間台地）湧水分布図

A　坂戸台地（入間台地）

▲A1「タムラ精工（小堤）」

現在のタムラ精工の敷地内、南東隅部に湧水あり、水量は多く用水に利用したとか。又、古老の話によると、水質が良く養老の水と言われたそうです。現在は消滅した。

▲A2「○○○○氏宅前」

○○○○氏宅前と田との間に湧水あり、近辺の用水にしたとか。

▲A3「能満寺（小堤）」

能満寺の境内、現在の水防小屋南側位置するところに湧水あり。代々の住職はその水を生活用水にしたとか。

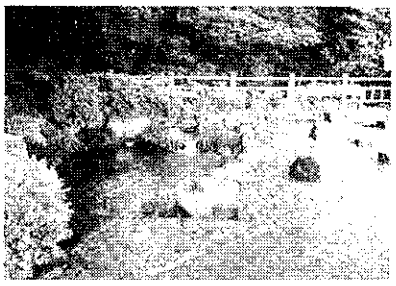
●A4「八幡神社（小堤）」

湧いているところ（今）…八幡神社の南下側、弁財天の池、昔から主要水利で、現在は能満寺下となっている。

夏の日の夕方、自転車で能満寺の脇を通り抜けた時、木陰の涼しさに思わず自転車を止めました。遊び心で裸足になり、湧水の中に足を入れた時の気持ち良さ、時には農家の方が野菜を洗っていたりもします。

県道のすぐ傍にこんなのどかな場所があるとは、車で通過する方はご存知ないのでしょう。周辺の開発が進んでもこの自然だけは枯らす事なく、大切に守って行きたいものです。

【市】一年中枯れることなく、安定した水量があります。平成9年度では平均230m^3／日。モニタリング地点。



A4　八幡神社

●A5「東洋大学（鯨井）」

今から60～70年昔、当時私は天沼新田で子供時代を過ごしましたが、このあたり一帯は全部平地林で、アカマツやクヌギ、コナラ等の雑木が密生していました。初秋の頃には「きのこ」取りに散策いたしましたが、この地に小さな池があり、その水源が湧水であることを自分の眼で確認した記憶がございます。今でもこの湧水は水量は減少しましたが、東洋大学の敷地内にありますし、大学では小公園のような形にして保存しています。

この湧水地は丁度小畔川と天の川の間にあって高台の中にあります。このように川と川の分水領と思われる地区に湧水が出ることに対し子供心に不思議に思ったことが、今でも忘れられません。

また一説によりますと、大昔、吉田、天沼から霞ヶ関方面までを含めて「天沼ヶ原」と云われたそうですが、上記の小さな池を「天沼」と称したとの話を耳にしたこともあります。

【市】現在は池の上流、テニスコート付近の水路で湧いています。モニタリング地点。

A5　東洋大学

●A6「東洋大グランド付近（吉田）」

【市】以前は○○○○さん宅の池から湧いていましたが、池を埋めた後南側の畑の下からわずかに湧いています。モニタリング地点。

A6　東洋大グランド付近

●A7「白髭神社東方（吉田）」

【市】一段上にお墓があり、その下からにじみだしています。枯れることあり。モニタリング地点。

●A8「白髭神社南（吉田）」

【市】倶利伽藍不動のある木の根元のくぼみから湧き出し、そのまま南へ行く流れと東へ回ってから南へ行く流れの2本に分かれています。モニタリング地点。

A8　白髭神社南

▲A9「川鶴1丁目南端（川鶴1丁目11）」

川鶴団地ができる前には、この付近は怖いくらいの林が広がっていて、この場所には5反ぐらいのため池があり、水が湧いていた。

●A10「東芳地戸、○○○○氏宅内堀（笠幡）」
東芳地戸905番地南側に小さな池が有り南の高台より今でもジクジク水が湧いて其の下流は50㎝位の掘りですが今も水が流れています。

現在、内堀で湧いている。
昔は1反ぐらいの池があり、そこに「タイコ橋」がかかっていて、川越の殿様がタカ狩りに来た時渡ったと聞いている。堀は昭和45年頃まで川棚になっていて、よく洗たくをした。また水田の用水としても利用していた。

【市】100m下流では、かなりの水量になっています。平成10年度からモニタリング地点に加えます。

A10　東芳地戸

▲A11「西芳地戸、○○○○氏裏の林（笠幡）」
西芳地戸878番地内に大昔200年～300年位前小さな池が有り其の処から湧水となって流れていた。

湧き出ている場所があって流れてきた所が池になっていた。そこで洗濯をしたが、今はでていない。

むかし、池がありドジョウがよくとれた。

A14　二島神社裏

▲A12「宮北1004番地」
宮北1004番地にかなりの大きい池が有り、尾崎神社の神主さんが其の池で体を清めて神に仕えていたそうです。

▲A13「小畔川元吉田堰（笠幡）」
小畦700番地先小畔川元吉田堰の下流西側に湧水が有り、畑仕事、水田の仕事で喉が渇くとよく飲みに行きました。

●A14「二島神社裏（笠幡）」
下新町1696番、1697番、1698番一帯の山林湿地帯よりにじみ出た水が2m位の幅の掘りが有り50年位前よりは少ないが今でも流れています。

A16　第二ひばり幼稚園南東

上流の松の木の根元から湧き出していた。
【市】林の中に池があり、そこから2本に分かれ流れだしています。モニタリング地点。

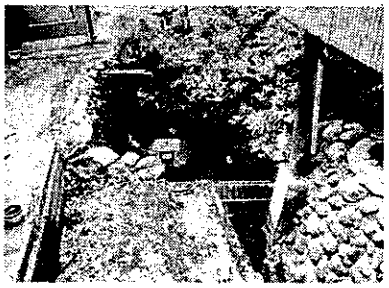
▲A15「御手洗瀬」
南方からの尾崎神社への参拝者が、手足を清めたと伝えられています。

●A16「第二ひばり幼稚園南東」
【市】尾崎神社から北小畔川に平行して通る道を600m程行った右側に資材置き場があります。その隅にある直径1m、深さ1mの穴から湧いています。モニタリング地点。

A17

●A17「○○○○氏宅（笠幡）」
【市】四角の石組があり昔は洗いものをしたが、今は池として使用しています。モニタリング地点。

●A18「○○○○氏宅（笠幡）」
【市】裏庭で池として利用しています。モニタリング地点。

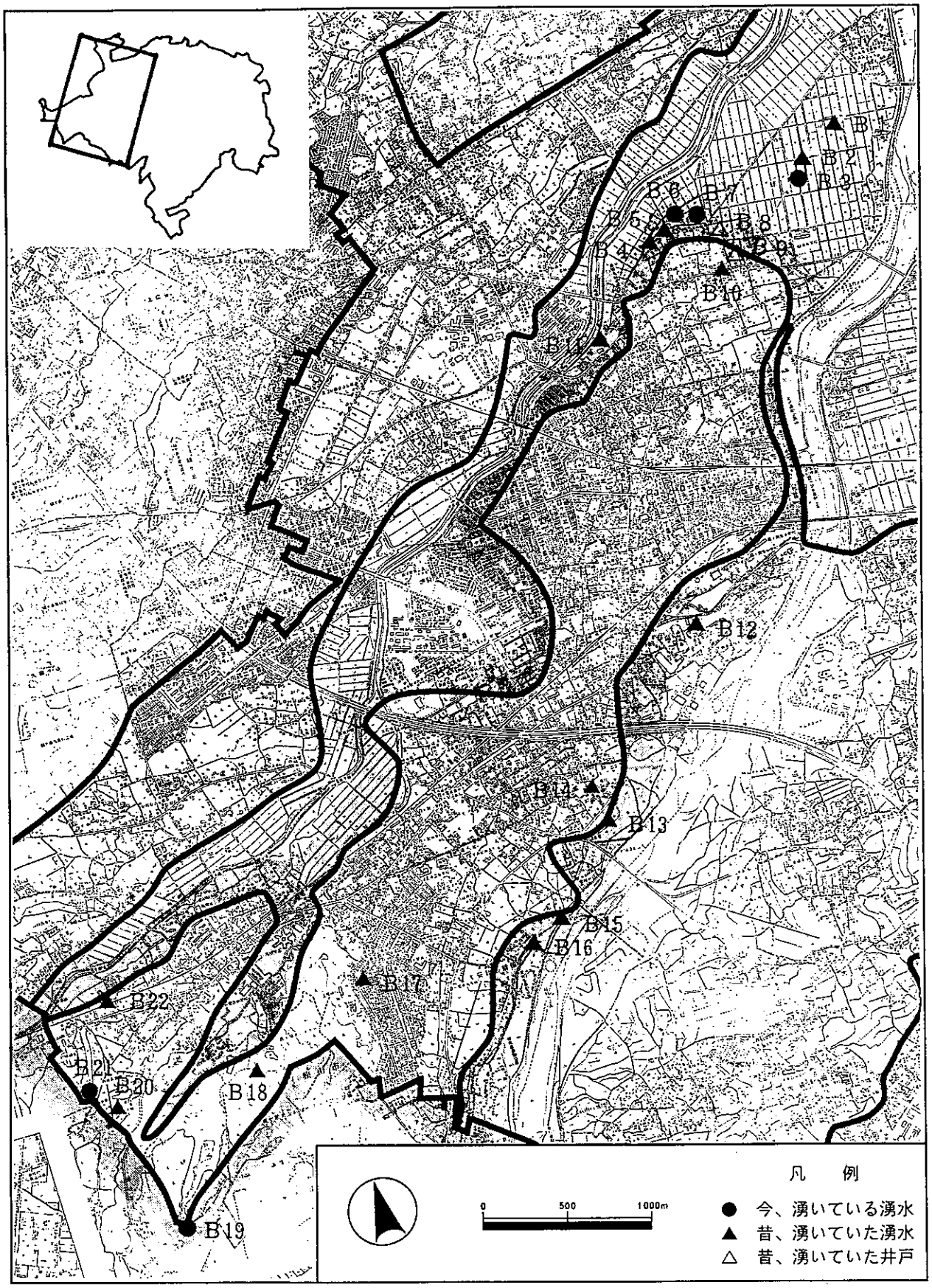

A18

●A19「○○○○氏宅（笠幡）」
【市】前庭に池。裏山に「ダイダラボッチの足跡」と言われている窪地があります。モニタリング地点。

▲A20「○○○○氏宅水田南側（下広谷）」
30年以上前、小さな池があって清水が湧いていた。今は埋め立てて水田になっている。

A19

B　飯能台地（入間台地）



飯能台地（入間台地）湧水分布図

B　飯能台地（入間台地）

▲B1「番田堀付近」
昭和33年頃まで湧水が出ておりました。

▲B2「番田堀付近」
60㎝位土を掘ると水が湧いてくる場所。

B3　番田堀

●B3「番田堀（鯨井）」
昭和30年頃、鯨井地区の田圃は土地改良を行い、現在の整理した耕地に成っております。其の前は曲がった道が多く水路も自然の曲がったままでした。そして、湧水によって流れる小川があちらこちらにありました。又田圃の中に湧水の釜があちらこちらにあって、私が子供の時に釜の中に置針をおいてなまずを取った事があります。そして現在排水路に成っている。番田堀は昔水車小屋があって、米や麦をついていました。それもみんな昔の事で今はありません。現在あるのは番田堀の水の流れです。これは湧水がどこともなく出て流れているのです。なにも利用されずに流れています。

自分達の9才から10才頃、秋になってイナゴ取りに行き喉が渇いて出水の水を一杯飲んだ事が記憶にある。但し、それは現在湧出して居る所よりはるか東によった所だったと思う。

湧水の下流に2年前には川魚が多くいましたが一昨年から清掃センターに関する排水の整備の為、昨年から一匹も生きる事の出来ない川になった事が残念です。U字溝の底を30㎝位たまりにして整備して下されば環境保全につながるのですが、地元の人と話し合って工事に着手するようにして戴きたい。春、秋には釣り人でにぎわっていたのですが、残念です。
【市】鯨井中学校北の水路を北に歩いていくと、初めはにじみだす程度ですが、その先では流れになっています。平成10年度からモニタリング地点に加えていきます。

▲B4「（有）高山建設付近」

▲B5「○○○○氏宅」
川棚の跡があるそうです。

B6　青林寺

●B6「青林寺」
【市】寺の裏の林にある浅い池から湧きだし、北の水路に流れ落ちています。モニタリング地点。

●B7「○○○○氏宅」
【市】裏に回り階段を下りると家の下から湧きだしているように見えます。この水は西側の竹藪からの湧水と合わさって北に流れています。市内の湧水では最も水量が多い。平成9年度途中からの測定値ですが、平均約1200 m^3／日。モニタリング地点。

△B8「○○○○氏宅」

△B9「○○○○氏宅そば」

▲B10「中泉（株）入口」

▲B11「司中野建設資材置場（鯨井）」
大きな池があった。

B7

▲B12「蟹山」
現在岩谷産業のある場所は、昔我々が子供の頃は蟹山と稱した900坪余りの山林で、栗の木が多くあってそして山にはスツカンボ、イタドリ等が密生していたので、秋には栗を採ったり野草を食べたり、又、山の東端の崩の下から湧き水が2ヶ所コンコンと湧きだして小さな沢をつくり堀になっていた。そして蟹がたくさん居たので子供達の好きな遊び場であった。然し、戦時中の食料増産の為に山林は開発されて、今はその面影もなくなってしまった。追、蟹がたくさん居た為に蟹山と言われたのである。

▲B13「蟹ケ渕」
上流からも、ここでも湧いていた。S.20～30年代まであったが今は埋められている。

昔

今

「霞ヶ関の史誌」より

B13　蟹ケ渕

▲B14「若宮八幡神社付近」
若宮八幡神社付近。ふだんは水がないのに雨が降ると湧いてきて洗濯ができた。

▲B15「入間川取水口付近」
今は、水門から川の水を取り入れて田畑に水をまわしている。
昔は湧き出している水を田にまわしていたが足らなくなって水門を作った。水門（川の水）とは別に湧き出していた。

入間川から的場方面へ、用水の取水口がありますが、そこで、35年くらい前まで水が湧いていました。水はきれいで、飲めました。

▲B16「安比奈運動公園」
八瀬付近の河原。何ヶ所もあった。砂利が持ち上がっていた。子供の頃河原のあちこちから湧き出していた。

安比奈運動公園のテニスコートの堤防側付近でも湧いていました。以前、入間川は今よりもっと北側の岸の近くを流れていました。

▲B17「水久保第二児童遊園地（笠幡）」
30～40年前、企業局団地ができる前に、日本鋼管牧場の跡地があった。現在の水久保第二児童公園の位置に沼があり、危ないので子供達は親から「入ったら上がれないよ」とよく言われた。実際に亡くなった子もいるらしい。

▲B18「谷津池」

●B19「野戸池」
【市】下流の駐車場の水路をモニタリング地点としています。

B19　野戸池

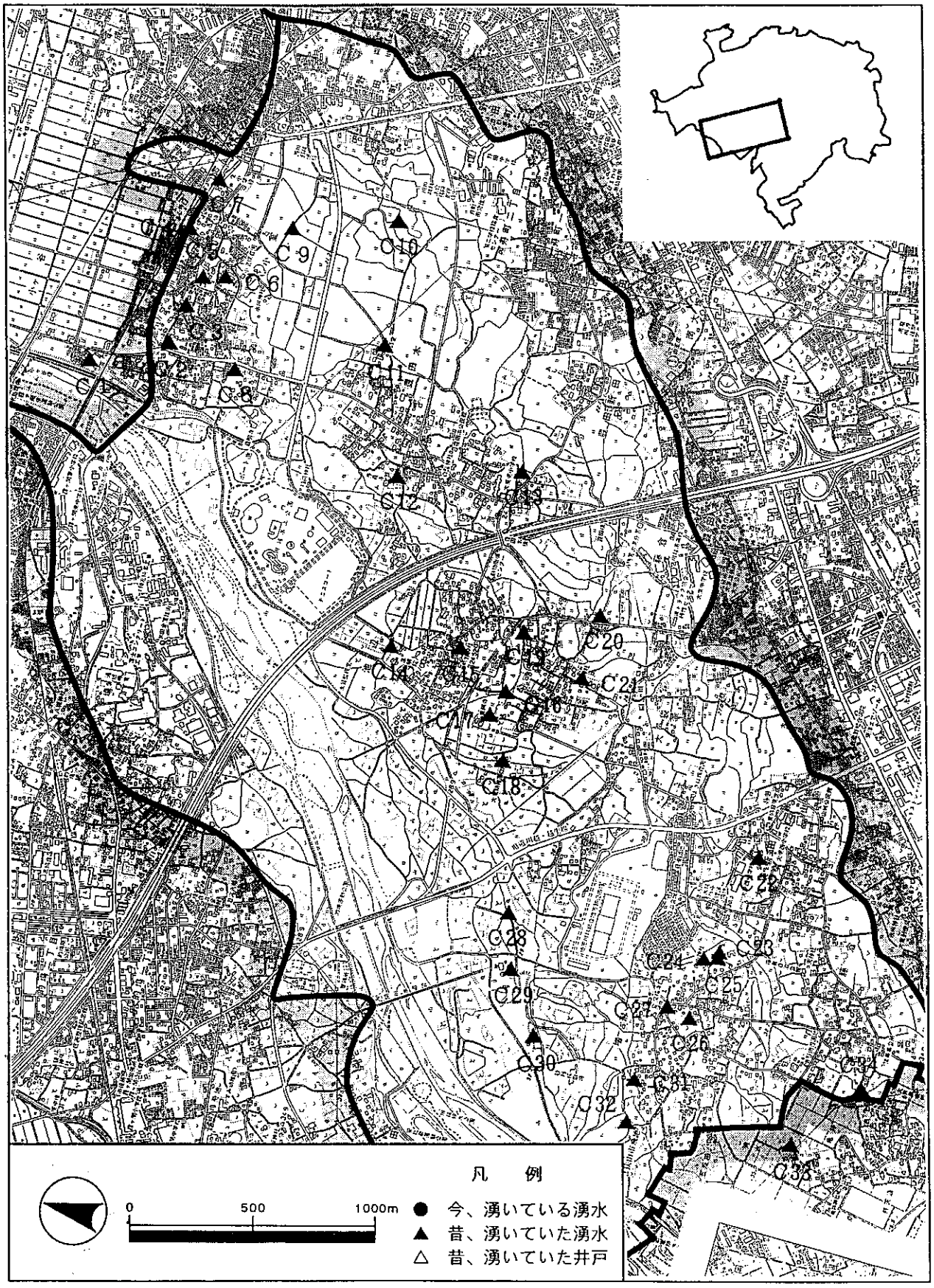
▲B20「西清掃センター」
【市】西清掃センター内の池で昔は湧いていたらしいが、現在は地下水をくみ循環させています。白鳥を見ることができます。

●B21「千才池（市民の森）」
【市】市民の森3号の林の中にある浅い池で湧いています。モニタリング地点。

▲B22「川越線そば」

B21　千才池

C　入間川扇状地



入間川扇状地湧水分布図

C　入間川扇状地

▲C1「おっぽり池（小ケ谷）」

主人の話では、子供の頃（50年前）には水が湧いていて、池の水でお米をといだり、泳いだり、鯉こくを食べたりしたほど水がきれいだったそうです。それがしだいに汚れていき、昭和35年ごろには井戸水を利用するようになってしまいました。入間川の堤防の拡張に伴って池が埋め立てられ、住宅地やゲートボール場に変わり、今では残っていません。

▲C2「やぶあい地区」

現在住宅地として居りますが、そのころにはやぶ合地区の田圃はごんごんと湧水が出て水田には向かなかったようです、冷水のため。

▲C3「○○○○氏宅」

小ヶ谷白山神社より東へ200mの処の川も同様に湧水が良く出ていました。そこでうなぎつりやバカガイをつりに行った思い出があります。

昭和40年代迄湧水があり（現在は埋め立てられ、畑になっている）ここを源として、綺麗な流れが出来、フナ、ウナギ、ナマズ等がいた。池（湧水していた所）の岸には、食用蛙の住む穴があり、以前は夏の夜、ヘッドランプを点けてそれをつかまえに来た人間（専門に捕獲）もいた。ウナギも同様である。水が澄んでいた故に、夏は蛍が群れ飛び、トンボも多種が発生した。当然、昆虫類も多種類がおり、夏は家の明かりを目がけてカブトムシ、クワガタ、カナブン等が飛来した。その他、ウマオイやいろいろな蝉、蛾も多くいた。流れが澄んでいた頃は、カワセミもいた。夏の田植え後や田草取りの後は、池やそこからの小川で体を洗い泳ぎもした。昭和20年代迄は、川に面した家は川棚を作り、そこで洗い物や、洗濯等もしたのである。メダカ、ミズスマシ、アメンボウ、その他水中昆虫も豊富に住み、カニ、シジミ、カワニナ等もいた。

▲C4「○○○○氏所有地」

▲C5「○○○○氏宅」

▲C6「○○○○氏所有地」

昭和初期（昭和12年以前）迄湧水があり、その流れは、現在の○○○○氏宅東側を通り、そのまま北へ流れて○○○○氏宅と○○○○氏宅の間を流れて真土川へ流れていた。現在の排水溝の位置そのまま。湧水していた地点は埋め立てられ、貸家（○○○○氏所有）になっている。

▲C7「鎌ノ口、泉小」

泉小裏に湧水していた鎌ノ口は、古い文献にも「…大字、小室、鎌口泉は田面沢小学校の裏にあり、住古より湧水豊富…云々…」とある通りに、その流れは、ガストの西側を通って川越線を横断し、今成へ流れて、田を灌漑した。泉は湧洞（子供達の間では”わきど”で通っていた）の名で親しまれ、生徒達は、そこで弁当箱を洗い手足を洗い、教室の雑巾掛けにもこの水を使った。流れには、砂目どじょうやシジミ、その他の魚、水中昆虫がおり、長い水草が揺らぎ、子供達の恰好の遊び場であった。その後、湧水をそのままにして広く周囲をコンクリートで囲いプールにしたが、昭和42年7月に校庭、南西端に新たにプール（現）が完成するに伴い、翌昭和43年7月20日に鎌ノ口は埋め立てられた。（泉小、資料文献に依る）。現在は、校舎南側に『鎌ノ口跡』の碑が建っている。

此のことについては大勢の方が思い出があると思います。それは現在の泉小の校内に直径4～50㎝の湧水口から冷たい清水が毎秒何トンと云う量の水が湧いていました。毎日校舎の掃除に喰み水に手足の洗い場にと畳6帖敷位の広い洗い場がありました。それが今成方面の水田の用水でした。さらにその水路を下った所にも何ヶ所もの湧水がありました。泉小の名の由来です。

父の話によると小室には湧水は他に数ヶ所あったと言うが泉小の鎌ノ口が一番水量が多く湧いていて授業の前に足を洗ったり、夏は池の中で泳いだりしたそうです。私が泉小に入学した時には校舎が建っており、どの様な状況だったかわかりませんが、以前の様に復活すれば良いと思っています。

私はこの小学校で高等科を卒業致しましたので、そのころを思い出して見ますと、校庭でドッチボウルや体操をした後には必ずいってこの湧水の処で手足や顔や洗った思い出がいっぱいでした。

泉小学校付近にも大きな湧水による池があったが、今はない。

▲C8「○○○○氏宅東」
私宅の前に○○○○様の家の裏より湧水がありシジミ取りなどをして遊んだ事がありました。

▲C9「カマ」
泉小と水上公園通りの中間地点に俗にカマと言う湧水の出る所がありました。直径1m位の石管、高さ50cmに囲われてよく水田作業に行って喉の渇きをいやしました。

▲C10「カニ山」
上野田、小室、豊田本、寿町の中間位の所に俗にカニ山（地名小名は豊田本有目）と子供達に云われている若干巾広い平らな雑木山があります。その場所を囲んで小川が流れています。その流れの個所から何ヶ所も中小の水が湧き出ていました。小石を掘り起こすと沢ガニが沢山居ました。近所の子供だけでなく、六軒町、中原町、三光町と云った所の子供達も遊びに来て有名な所でした。
いづれも昔話。S.20～30年頃までです。

▲C11「薬師堂」
善長寺管理の薬師堂と2軒の人家は、田の海に浮かぶ小島。水郷のおもむきが広がる散歩道。
九頭竜様の石仏は保存が良く美しい。

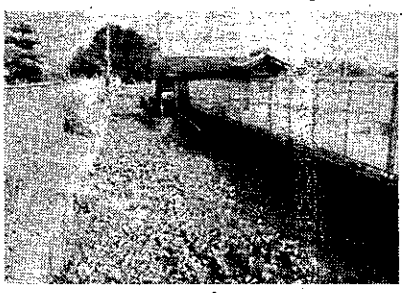
▲C12「善長寺」
御林山は田に浮かぶ小島の様。
御林山は川越の殿様が家族づれで年に何回か野遊をした。川刈りなどの準備で大変だった。今は竹やぶ。この地点の地下水位：40年前5m、今11m。

▲C13「お堂（大東東小南）」
子供の頃（昭和20年代）は、小学校にプールがなかったので、そこで水あそびをした思い出がある。水はとても冷たくきれいだった。

現在大東東小学校の前にもオドウと申しつきれいな水が湧いて居りました。昔の写真はありませんが、今の写真は保存して居ります。

昔
「大東百年のあゆみ」より

→


今

C13　お堂

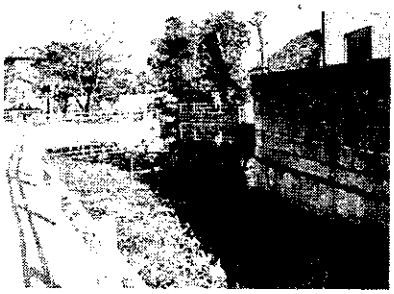
▲C14「大東おっぽり」
昔（小学生の頃）夏休みの自由研究で、おっぽりのことも調べ、写真を撮った覚えがあるのですがさがしても見つかりませんでした。

▲C15「弁天池」
弁天池は、前は今の5倍とも10倍ともいわれる。

池辺地区では廻りを川でかこわれている所で御座居ます。子供の頃は川上からの湧き水で田んぼの水は充分間に合っていた物で、川には沢かに等たくさん居りました。特に弁天池、押堀池などでは、大きな釜と言う物が有りまして冷たい水が湧き出て居た物で御座居ます。

今や押堀池などでは、埋め立て、ゲードボール場と姿をかえている訳で御座居ます。

一搬に地下水の下がったことをつくづく感じます。



C15　弁天池

30年代、久保町に嫁してしまっている者ですが、実家に行く度にこの池の水が昔のように戻らないものかしら、と思っております。

小さな池ですが、周囲に黄色い花をつけるあやめがすっかりおおっておりましたが、今ではコンクリートになっております。でも、池の中に誰かが入れたのか水草が生えており、池の浄化の為に手を掛けておられる様ですが、とてもとても間に合いません。この池の上流はたった40～50mなのです。川幅60～70cmの小川からこの池に入りますが、池の中にカマと称する湧く基がありました。それから池のへりに井戸があり、コンコンと湧いておりました（持ち主がありました）。20年代までだったでしょうか、近所の子供達（男性の大人も）夏になるとよく泳いだものです。私もその一人でした。あそこはカマがあるから近付かないようにと父母や先輩から言われた処がありました。ヘビが気持ちよさそうに横切ったり、ヒゴイ、マゴイが泳いでいて水底は石でしたから、スイスイ泳いでいる様子がきれいでした。メダカの群もイトアメトンボもカエルも、もちろんホタルの発祥もありました。小さな生き物との共存があった時代を懐かしんでいるものです。

「危ないから行くな」と言われていた。

20年前は、よくザリガニ釣りをしたが、湧いていたか不明だ。

▲C16「清水」

この付近は「清水」という地名で、湧水が湧いていた。川幅は7～8mあり船で渡った。昭和20年ごろまで湧いていた。

▲C17「東陽寺付近」

この地点は、銀蔵園風土記稿に赤間川源流の泉とあるのに当たると思う。

東陽寺とその周辺は、大東や川越のひがん花の景観地。その他、四季自然人文景観に富む散歩道。

▲C18「新卜山」

昔と云うのは昭和20年の干魃の前迄は大袋地内至る川から湧き出して居ました。その頃はフナ、ドジョウ、シジミ、カタッケイ、エビその他の魚類がいました。戦後の発展と同時に入間川の砂利採取により河原が低くなって湧水がなくなりました。

昔は各地区に清水と云う地名があったのではないでしょうか。大袋にも清水という地名があり至る所に湧き出し釜がありました。

▲C19「前川」

私の母が子供の頃、近く（増形）に湧水があったということなので報告します。場所は前川、長瀞、おお瀞、でん水で、当時は湧水の量が多く、泳いだり、水を汲んだり、洗い物をしたりと生活に密着したものだったようです。そんな湧水も昭和30年代後半から湧水の量が減って枯れたり、土地の改変があったりで現在は殆ど面影を残していないということです。

江戸時代の絵図が博物館にある。現状の景観は基本的には変わりがない。巾の広い前川では、子供達がおよいだのはつい40年前。

▲C20「新堀」

私昭和2年4月6日大田尋常高等小学校に入学致しました。其の頃は赤間川の水もきれいでフナ、コイ、ジジミ、カラスガイ、ドジョウ、ウナギ等多くいました。上図に書いた湧水は昔は豊田方面へ流れたと思いますが、赤間川も江戸時代は増形あたりの湧水と思われます。この湧水は通称新掘と言って居りました私友達と共に遊んだ所の水門は昔のまま完全に残って居ります。其の水門の石に新掘桶管大正4年と見られます。昭和2～3年後其の所で水がきれいでしたので水あびをしましたが、水が冷たくて5分と水の中に入っていられませんでした。又、其の時にウナギ、サワガニの大きいのを取ったのを見て居ります。水不足の為豊田新田の農家の方々が赤間川に流して水田に使用したと思います。

井戸わくが残っている。

コインウォッシャーうらの林の北側の池で水が湧いていた。湧き水は豊田新田側と豊田側の新堀に分かれて用水として流れていた。我が家の裏にも流れていて、洗濯をした。魚がたくさんいてよくとった。昭和18年ごろまで湧いていたと思う。

下が入間川とつながっているため、工業団地からの下水道の工事の際（昭和39年頃）、前川橋のところはいくら汲んでも水が引かず難航した。前川で冬、魚をとるため、水をくみ出したことがあったがなかなか水が減らなかった思い出ある。

この辺で湧水は、白髭神社、前川、新堀くらいだ。

▲C21「白髭神社東」

この地点は、以前は白髭神社の境内。

▲C22「田水、伝水、出水、でんすい（大東西中）」

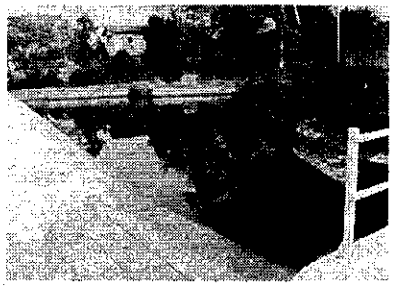
小学校低学年のころ、スイカを冷やしたりした。水遊びで入れないくらい冷たかったが、子供たちの遊び場だった。遠くの人も来ていた。きれいすぎて魚が釣れにくかった（水草が多かった）。

今は湧いておらず、釣り堀から水は流れてきているが、たまり水に近い。子供の釣り場。

まわりは護岸され、下部は玉石が敷かれている。

池が大きく浅いために小学校の生徒がよく（学校に近いため）水泳の練習を行った所である　（昭和18～20年頃まで）。

この池の湧水源は今の大東西中学校の前の武蔵野寮の北に有った。湧き出し口の所は巾がせまく川の様で深かった。



C22　田水、伝水、出水、でんすい

ア．昔の状況

1．昔湧いていたところは高橋地区で、川越市大字大袋新田391番地の川越市立大東西中学校南門付近より新池と田水（昔からの通称）である。

2．昔からの呼称及び大きさは（大きさ、深さは推定）

新池（しんいけ）…幅約3m、長さ約150m、深さ約1m

田水（でんすい）又は出水（ですい）…池の大きさ約300㎡、深いところ中央部約2m

3．新池は両側に丸たん棒と丸たん棒の間に木の枝ですっかり土がくずれないようにしてあった。あちこちに湧き水、すきとおって小さな魚が見られた。

4．田水及びその下流の民家はこの綺麗な水を利用して、川辺（かわべり）に洗場（川段か川棚と称した）とし、身をかがめて、両手で洗いやすいようにして、ゆすぎや、洗い物等活用していた。

5．下流の稲作農家にとって、田に引く水のめぐまれた豊富な水源であった。

6．新池の水は田水に流れ、田水は子供達の唯一の夏の水遊びの場所であった。

7．又、両池はすきとおった水でちびっ子達の魚釣りの絶好の場所であった。

8．しかしながら昭和32年の異常渇水の年より、この湧き水は逐次途絶えてきた（今から40年程前）。

イ．今の状況

1．昭和62.4.1.大東西中学校開校に伴う付帯工事により、この地区一帯は環境整備されて、昔の池らしき姿は変貌し、現在のような総てコンクリート化した形となる（開校2～3年程前より、従って今から12年程前と思われる）。

2．現在の水の流れは中学校南門より西方向500m位の地点に宇佐見養鱒場が施設され（川越市藤倉19番地、昭和38年頃、今から35年程前）井戸水が流れる下流と化した。

3．中学校南門前の橋下の池には鯉と緋鯉、そして家鴨が2、3羽たむろしている（この池の境には小さな堰があり大きな魚は下流に流されない）。

4．かっての田水地点の池は時代は変わっても今尚、子供達の人気の釣場である。

5．下流の両側はコンクリート化して昔のおもかげはない。

現在はコンクリートで整備されてしまいましたが、小学校、中学校の頃まで釣りをした思い出があります。

この場所は子供の頃でん水と言っていました。漢字では分かりませんがたぶん田水だと思います。今から約45年前頃良く夏になると、学校帰りには水遊びが日課でした。年間魚つり又もりで魚を捕ったり、子供達の絶好の遊び場でした。釜場ではあちこちで砂を上げて水が湧いており、魚が泳いでいるのが良く分かりました。釜場は冷たくて泳げず、下の方広い所で遊んでいました。今はコンクリートで排水路に整備され、大きな鯉、アヒル、かもがはなしています。

昔のおもかげも少し有り、いまでは子供の頃遊んだことが懐かしく思い出されます。もし湧き水が復活できれば夢の様です。

今は150m上流のつり堀で24時間地下水を上げて、この堀に流していてきれいで、水遊び、つりの人もいる。

▲C23「宮ノ脇池」

私が子供の頃（昭和15年頃）一番近くにあったのでよくタライ（洗たくをする大きな平たい桶）を持って行き、水遊びをして過ごしました。今は昔の様子はなにもない。

池の大きさは15mぐらいの正四角形に近く深さも1m位で有ったと思う。

▲C24「冷堀」

近くの山（林）側からも水が湧き出して居て冷堀が掘られて居た。

▲C25「冷堀」

小さい頃、へいぼりと聞いていた所ですが冷堀（ヒエボリ）とのことでした。湧水は見ていませんが、○○○○氏に伺いました。○○○○氏が大東歴史研究会のメンバーでまとめて提出しているとおもいますので写真（現在の姿）を添付いたします。

▲C26「タリ」

タリ＝湧水（冷堀）と同じである。

○○○○さん宅と○○○○さん宅の間から湧水があったと聞きました。○○○○さん宅は、タリと呼ばれていましたが水が集まる所の意味があるらしいです。スガイ商店から泉福寺の裏を水が流れたそうです。

▲C27「弁天池」

弁天池は今は民地になって宅地になっていますが弁天様が祭られて（少し池が残って居る）居ますが。

▲C28「丸池」

丸池は大瀞と長瀞の留水地の様に感じた。

▲C29「大瀞」

この池は昭和30年頃まで湧水が出て居た、池というより川といった方が適当かも知れないが、今の総合市場に近かった為に農作業の時ののみ水として多くの人に利用されていた。私も利用していた。

丸池、おおとろは現在、西武建材の砂利採掘場の中になっていますが、長瀞は現在もあります。おおとろは湧水が豊富で沢山水が湧いていて近くに生活していた人達の水道がわりにもなっていたのではないでしょうか？十分飲める水でとても冷たく牛乳など冷やしてあったのを覚えています。沢ガニ採りもした思い出があります。

私が子供の頃には増形地区及びその周辺には多く（上図）の湧水池があって多くの水が湧き出して居ました。そして、各湧水池には多くの異なった思い出が有りました。今は全部が湧水が認められませんが形だけが残って有りますが、一部には全くその姿が残っていない所もありますので私がおぼえて居る所を書きました。

また、各湧水池の思い出は別紙に記しましたので見て下されば幸いと思います。

上図の湧水の中で最後まで湧水が出て居たのは大瀞で昭和30年頃までで有った。

C30 長瀞

▲C30「長瀞」

この池は大きな池で全長は約100m位で幅は30～40m位あって今も残って居ますが、私が子供の頃には、たびたび村の青年達が水泳大会を行っていました。この池は大袋地区の水田の用水として利用されていた。

長瀞は魚釣りをよくしました。入間川の水もきれいで沢山の種類の魚がいましたが、川が汚れてしまって残念です。又昔のような川を取り戻したいです。

▲C31「胡桃淵下流の池」

胡桃淵池は下流100m位の所に巾20m長さ30m位の池が有り、昔は魚が多く居り良くつりを学校から帰るとつり竿を持って魚をつりに行ったものである。〇〇さんのうらの池（名前は改めてありません）。

歴史とかっての豊富な入間川の伏流水による湧水地が沢山ある散歩道。
四季の野草の花園がバラエティ多く続く。
長瀞沼は毎年秋かいほうされるが、大きなコイが何十匹もあがる。
またアシ原にはヨシを刈る業者がかつては来た。
中でもひがん花の美しさは、川越一、大東一の景観。半ぞう堤。

▲C32「胡桃淵、くるみん渕」

夏は冷たくて長く遊べず、冬はけむりが上がる程あたたかかった。竹でできたぬいだ着物をかける場所がつくってあった。〇〇〇〇氏裏に広くまるく長くある。うなぎ、なまず、くき、とげのある魚、ダナゴがいた。かいこが上がるころ、ホタルみごとなほどだった。

胡桃淵は巾が約10m位で長さも30～40mで深くなっていたが、今は高い土手がけずり取られているが今も残って居る。

▲C33「清水山（狭山）」

清水山池は狭山市であるが水利権は増形清水用水が持っており、昭和30年、33年の渇水の時には用水井戸を設置して利用して居たが今は耕地整理が行われて今は昔の姿は残っていません。

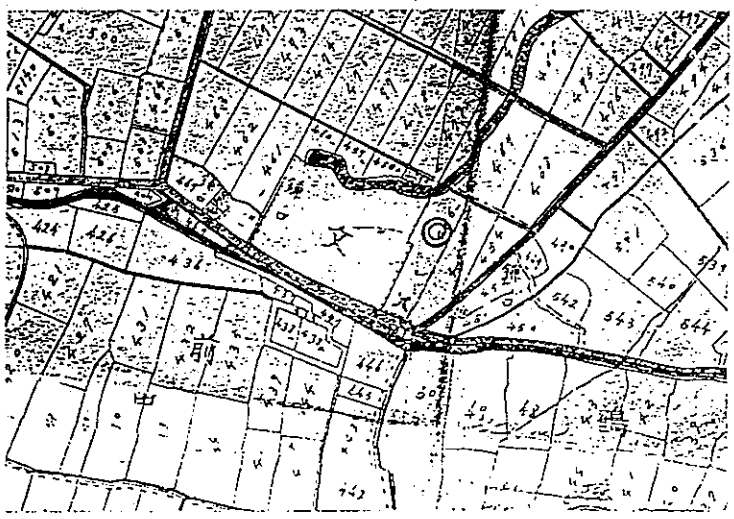
清水山は狭山市と川越市の境で狭山市に入るようですが沢山の湧水がありました。

昔は林が広がっていて、池から湧いていたが、耕地整理と宅地化で今は消えてしまった。

▲C34「西の谷（にしのや）」

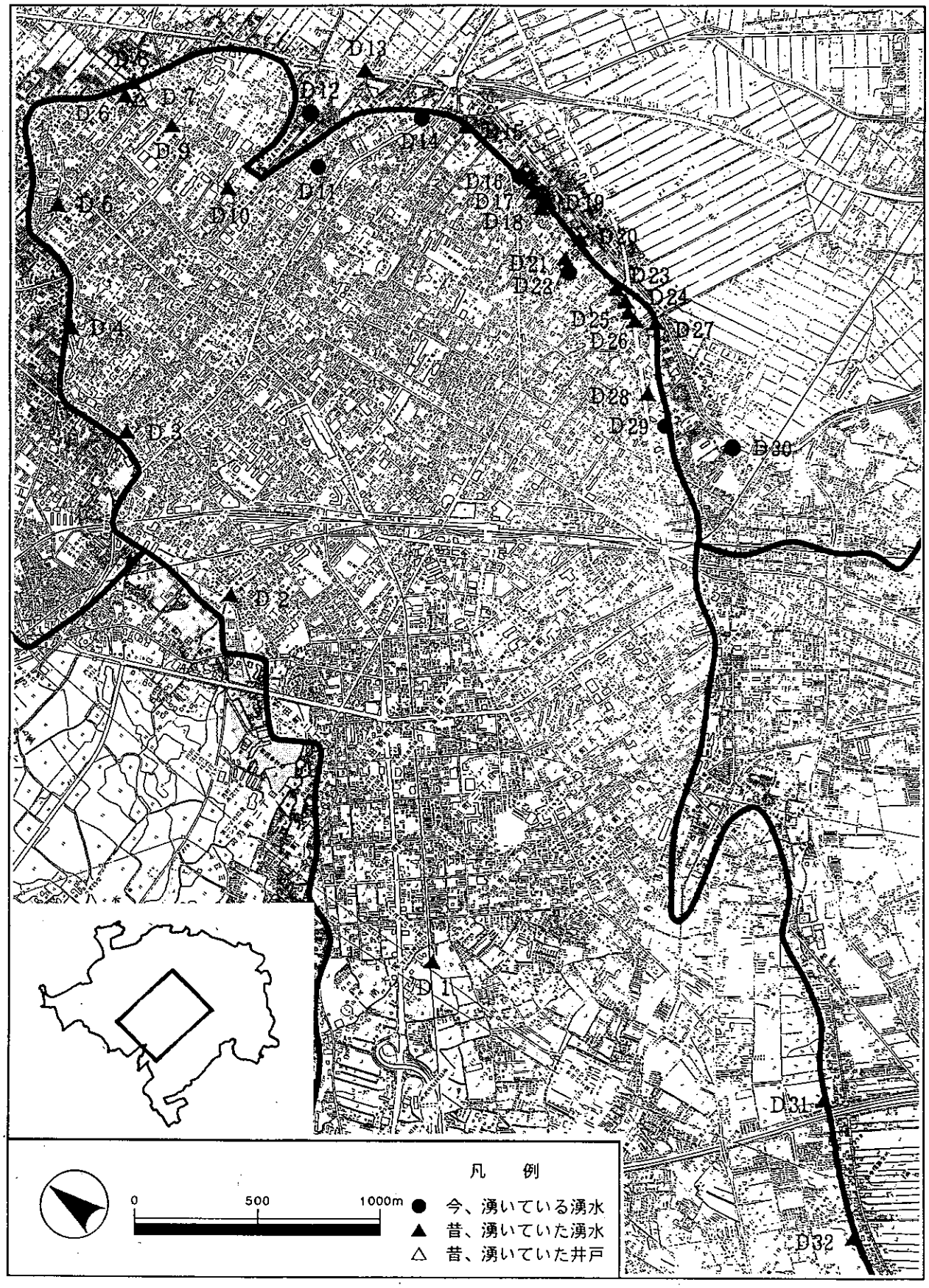
西ノ谷は田んぼの中に池があったのを覚えていますが、湧水があったそうです。現在は耕地整理で堀のようになっている。

今は畑になっているが、50年以上前は池があり、水が湧いていて釣り人が来ていた。この付近では沢ガニがいたので、夜になると明かりをもって遠くからもカニとりに来ていた。地面の浅い所にいい砂利層があるので、業者に売っていた家もあった。



C7　「泉小120年史」より

D　川越台（武蔵野台地）



川越台（武蔵野台地）湧水分布図

D　川越台（武蔵野台地）

▲D1「南大塚」

S.40年代に雨が降ると冷たい水がたくさん湧いていた。水は澄んでいた。足をつけると冷たかった。また現在、西武線の線路のところにも、土管があり、そこから水が湧いていた。

▲D2「野田の澄水」

『権現松の南方の崖下に穴があり、そこから澄んだ水が湧き出し、渇れることがなかった。この澄水は霊験あらたかで、足の病に効くと言われていた。

或る時、隣の豊田村から某が、荷物をかついで、川越の町へ行こうとしたところ、途中で足を痛め、歩行が困難になった。そこで早速、この澄水に足をつけたところ、たちまち効果があらわれ、川越町へ行くことができたそうである。また、この水を竹筒に汲んで病人に飲ませても、効果があったと言われている。人々は、お礼として、額、竹筒等多数の奉納があったとのことである。

この処は、いわゆるはけという処であり、昔は、湧水が処々にあったことは事実である。』［「野田町の歴史」より］

▲D3「経ヶ島弁財天」

妙昌寺の川側の所にも、湧水があった。弁財天が島のようになっていて、まわりが池になっていた。

▲D4「赤間川公園の前」

渡辺水車の前に堰があり深くなっていて、潜っていくと川底から水が湧いていたのを覚えている。農業用水に使われなくなって堰をはずしたあと水が少なくなったのだから、昭和23，24年ごろ湧水が止まったのだと思う。子供の頃は、ここか、小ケ谷か、真土川と新河岸川の合流地点にあった私立の有料プールで泳いでいた。○○○○氏宅では、赤間川から水を引き込み水車により精米をしていた。水車は他に濯紫公園の所に「いおりの水車」、東洋ゴム工場の付近に「水口の水車」があり、小室、月吉の方にもあった。

高沢橋付近では、土手に縁台が並び、岐阜提灯で夕涼みに一杯やったものだ。堰の下はヘドロがたまるので、毎年8月16日に堰をはずし掃除をした。そのときには鯉や鰻やドジョウがとれた。昭和22，23年ごろまでゲンジホタルを見ることができ、ホタルの名所だった。8月15日に、石原の田んぼの仕掛け花火も見られた。濯紫公園付近と石原橋の○○さんで貸しボート屋をしていて、夏には氷をかいていた。

赤間川は、増形のお寺の池が源流で、台地のはずれを流れているので大東地区からずっと崖のいたる所で湧水があり、川の水は全部湧水でできていて、今より水量があった。高台をコンクリートで覆ってしまったので湧水が枯れ、入間川から水をもらうようになっている。下流は、田谷堰から伊佐沼・九十川を通り、新河岸川に流れていた。田谷堰から仙波の滝までは、昭和7～10年頃の失業対策で掘った掘割である。

▲D5「広済寺下」

10月15日発行の後楽に書かれていた湧水に付、私が父親から幾回も楽しそうに聞いた話です。

「広済寺下の此の家の前（細い道）はいつも清水が流れ出していたんだよ。坂下は低いからな大東から大水が出た時も坂下は一面の水で此所の桑畠だけが出ていたんだ。」

父は時宗東明寺の坊さんに学校のあと、塾に近所の子供達とおせわになっていたそうです。先生（坊さん）が都合でいない時は遊べるのでみんなでにこにこしながら赤間川に魚とりに行くのだそうです。坂下の広済寺下はお寺の山から清水がいつも流れ出ていてワラゾウリで川の近くに行くまでにはビショビショで重くつめたくなるんだ。川は良いな良いな幾回も笑いながら話された事でしょう。（父：明治26年生まれ）

▲D6「氷川神社西旧水路」

旧水路脇から全体的に湧出し流れ込んでいた。どじょうなどがいた。

水源を見たという記憶はないので、果たして湧水があったのか、断言出来ませんが、しかし、このあたりにきれいな小川が流れておりました。幅は1～2mぐらい。その川より上流はないので湧水としか考えられませんが。

新河岸川（赤間川）田谷堰下流が現在の方向に変えられる以前（S.11.12頃）のことです。それこそ唱歌の歌詞の如く、蛙、目高、鮒、どじょう、げんごろう、水すまし、ヤモリ等々水棲小動物のすみか、子供達の魚掬い、良い遊び場でした。もちろん農業用水に利用されていましたが、氷川神社境内北側の崖下では可成りの水量で天王さま（7月15日）のあと、白丁（白袴）の洗濯をしていた光景を覚えております。その辺りの水量からみて、只一ヶ所の湧水が単純に流れていたのではなく、複数の水源からの水が合流していたものと思われます。

△D7「氷川神社自噴井戸」

氷川神社、神殿内と神社入口右側にある2ヶ所の井戸は自噴していた。

▲D8「氷川神社裏」

宮下町二丁目の氷川神社裏は清水が湧いていた。昔（昭和10年以前は、このあたりは田であって、いつも水があった湿地であった。神社の直ぐ裏側には、小川が流れていて、鮒、どじょうなどの川魚がよくとれた。今の新河岸川も、川底よりいつも水が湧いていて、ひどい渇水時でも水が枯れることはない。

新河岸川の工事の際、矢板を打っても湧水が多すぎるため内側にもう一列打ち、排水しながら工事をした記憶がある。

▲D9「初雁中の運動場」

現在の初雁中学の運動場付近より湧き出して養護学校の真ん中を通り新河岸川を抜けて松下地区の用水として使用していた。新河岸川（赤間川）が昭和12年頃に出来る前の事です。養護学校の（昭和27・8年頃出来るまで学校のところで水田を耕していた。又、この湧水の利用して鯉の養殖もしていた。又、養護学校のところは杉下地区と同じ川越市松柳となっている。町名改定で宮下町1丁目となっている。

ここは川越町の範囲だが、杉下地区に入っていて毎年水路掃除をしていた。稲田の前では鯉の養殖もしていた。

▲D10「市民会館裏」

●D11「浮島神社」

【市】神社の池と下流水路で湧いていることがあります。モニタリング地点。

D11　浮島神社

●D12「郭町浄水場南」

【市】この地域はもともと湿地帯で、「七つ釜」や「よな川」で知られています。ひまわり東幼稚園の裏でもにじみだしていることがあります。モニタリング地点。

▲D13「オアシス前の新河岸川」

去年の夏、川越市「オアシス」前の新河岸川の水がきれいだったので、下に降りてみたら、川底の砂がモクモクと巻き上がって水が湧いているのが見えた。柿田川の湧水とは比べものにならない程の小さな巻き上げであったが、感激した。

オアシスの付近に田んぼがあって、田植え時には足こぎの水車を取り付けて、赤間川の水を田へ引いていた。

D12　郭町浄水場南

●D14「はなぎ」

通稱、湧水が出ていた場所を「はなぎ」と言っていた。水が冷たく子供の頃魚とりに行った帰り、近くの畑からトマト、ナシウリ（黄色いウリ）を頂き湧水で冷やして食べた想い出。又、水がきれいなので、ウナギなども網にかかった想い出がある。今は住宅が建ち並び、国道が走ってまったくおもかげがなくなってしまった。湧水場所は幅1.5ｍくらい。

【市】埋立地のしもの水路で現在も湧いています。モニタリング地点。

D14　はなぎ

▲D15「小仙波貝塚」

小学校の頃湧いていた。農家が野菜や汚れた足を洗っていた。今は砂利？で埋まっている。

●D16「龍池弁財天、牛弁天、小仙波弁財天、弁財天」

川越市老人クラブの機関誌（後楽）65号の記事に刺激され、少年時代の思い出がよみがえって来ましたので一筆いたします。川越駅から、三番町を通り、大宮行きのバスの通る道の仙波下の手前、カーブのあたりに、通称「牛弁天」という湧水がありました。一時枯れましたが、近頃また湧いているようです。

この湧水は、私たちが子供の頃、川遊びをし（魚とりなど）、帰るときに、水をのんだり、魚を入れたビクの水をかえたりする、絶好のところでした。泥足を洗い、ひとしきり水に足をひたしてから帰ったものです。

ここの湧水の、池は三段になっていて、三段目は、かなり深くなっていて、そこに「トゲウオ」がいたのです。体長3センチ位で、つかまえると背中と腹から「とげを出し、チクッとさします。めずらしい魚なので、網ですくって家に持ち帰って飼ったりしましたがたいていは死んでしまいました。これが、その後、熊谷あたりで発見された幻の魚「ムサシトミヨ」と同じものであったと私は思っています。湧き水のような清澄な、冷たい水の中にしかすまない魚でした。今はかげも形もありませんが、おしいことをしたものです。

D16　龍池弁財天、牛弁天、小仙波弁財天、弁財天

湧出部分に竜の石碑があった。湧口で物を冷やし、中程で野菜を、下で足を洗った。弁財天の斜め前・道の反対側も湧いていた。その水が弁財天のそばに流れ込んでいたようだ。

昔九十川や赤間川に魚釣りにいって、帰りに、水を取り替えたり、足を洗ったり冷やしたりして、遊びました。昭和14、15年まで遊んでいた。銀杏の木があって、それをよく採った。

子供の頃、冷たい水が出ていた。最近、近所の人と（思い出して）行ってみたら、付近に住宅が多く変わってしまっていたが、今も水が湧いていて感激した。湧き口の北側の土手に60～70cm程の龍の石像があったはずだが今は見あたらない。
また、弁天様のほこらがもう少し近い位置に、湧き出しは小さい四角だったような気がする。

昔より川越市と云う処は台地上に存在して居り川越市に到着するには東西南北とどの地方から入るにしても河を越えなければ入れないと云う自然環境に恵まれており、その為昔は河越と云う字が使われていたと聞く。その為川越台地を越えた処では至る処で地下水が混々と湧き出ており人間生活に対して不可欠な水との共存によって生活していたと思う。又、私も子供の頃親に連れられて現在の小仙波町の弁天様の下に湧き出ている弁天池に、年末間近になるとリヤカーに障子を積んで障子を洗いに連れていかれたものである。
又、湧き水の為、夏は冷たく冬は暖かく水の中で遊んでいて親にしかられた印象が今だに心の奥底に深く刻まれており、昔の懐かしい思い出となっている。

小さい頃、よく遊びに行きました。きれいな水が湧いていて今も心の中に、その時のことを大切にしまってあります。今はどうなっているのでしょう。又、復活出来たらすばらしいでしょうね。

何年か前は水も枯れて居りましたが、今年は水も多く湧き出て満水といっても良い程湧いて居ります。戦前は古谷村、芳野村の農家の方が、牛馬を引いて新宿の方の畑に農耕に出て、その帰りに立ち寄って牛馬と共に一日の体を癒す為に休んでおりました。夏は近所の子供達が、畑よりトマトやキュウリをもいで来て、来るとすぐ湧水に入れて遊び、ひと遊びすると休憩に冷えたトマトやキュウリをかじって遊んだものです。又、年の暮れになると障子洗いをする人の姿もありました。湧水ですので暖かいのだと思われます。その湧いている場所の上には石碑に蛇の姿を彫ったものもありました。又池の西側一寸高い所に白い祠があり（現在もあります）祠より左側（東）に芭蕉の句
「名月や池辺をめぐ里て夜も壽がら」の碑がありました（現在喜多院五百羅漢の西側に　移されて居ります）
私達、小仙波町4丁目でも昭和40年頃より自治会長を中心として弁天池のそばの木の下で暑気払いと称してビール飲み大会を10数回開いて懇談したことも今になって見ますと懐かしく思い出されます。
小仙波町4丁目も当時世帯数は100余りでしたが現在に至りましては、360世帯と大きくなり、新しく転居された方も多く居りますので川越市におかれましては所有者の喜多院さんの住職さん、檀家総代の○○○○氏とも相談下され、遊園地として造成して下さる様、湧水池調査と併せてお願い申し上げます。
【市】通常湧いていますが、平成8年の夏は枯れてしまいました。平成9年度では約150m³／日。モニタリング地点。竜の石碑は現在では見あたりません。

▲D17「○○氏宅」

▲D18「○○家裏山」
『代々現在の地に居をかまえるお宅と聞く。その昔、家敷きの背後は大きな山であった。遥か遠くには、古谷地区の風景が見渡せ、赤間川のてまえ一帯は、アシ、ヨシが、多く繁っていたそうだ。また、電気が敷かれない頃、豚を飼い、豚からのメタンガスが、電灯の明かりをはじめ、燃料として役立たという珍しい話も耳にした。
お隣の家といえば、500メートルはなれてKさん宅の家だったとか。ついでに書き添えるならばKさんの家も、

湧き水を井戸として使用いて、近くには、鯉が泳ぐ池もあり、ホタルも、見られたそうだ。
さて、裏山の湧き水あたりは、子供達の格好の遊び場であり、沢蟹、八ツ目鰻取りに興じた。蝮もいたというからかなり危険を承知の遊び場だったかもしれない。
諸事情により裏山は、崩され、付近は、造成されていったようだ。暗渠事業後、家は建ち始められ、川岸近くへ住宅は伸びていった。さらに、バイパスの開通に伴い、周囲の様子は、日に日に様変わりをしていき、今日に至ったようだ。』［「川越、仙波町見て歩記～湧き水跡めぐり～」倉林秀子著より］

▲D19「○○氏宅」

▲D20「三本杉洗い場」
『このあたりの農家では馬を飼っていたのは、数軒でほとんどが牛でした。杉の木は大人一人ではかかえきれないほどでした。そして、こんこんと水は、湧いていました。
現在の橋も、昭和19年頃までは、もう少し北よりの位置でしたが、耕地整理で今の位置に架けられました。
ちがや（屋根をふくのに使用する）やお茶が植えてありました。高台の土が崩れないようにするための昔の人の知恵であったのでしょうね。湧き水の通り道にはホタルも見られきれいでした。ちがやの根が横に走っている様子が見えました。また、このあたりを精進場とか三本杉というふうに呼んでいました。腰まで水に浸かって田んぼ仕事をしていたんですよ。』［「川越、仙波町見て歩記」より］

▲D21「○○家井戸」
『手をのばせば簡単に湧き水を汲むことができたという。
○○家が空き家になってから数年経っている。ほとんど毎日といってよいほど、その家の前を通りすぎていたのに、一度もお目にかかったことがなかった。しずかなたたづまいのお宅だなと感じてはいた。数年前、子持たずのご夫婦は間を空けることなく亡くなられたそうだ。その後、直ちに取り壊されることもなく住まいはもとのままの状態におかれてあった。お向かいに住むという主婦のお一人に湧き水のことを尋ねるとわざわざ足をはこんでくださり、水の湧いていたであろうキンモクセイの根のあたりを指さされた。そして、半ばなつかしように「はじめは、茅葺きの小さな家で、絵本か、アニメーションにでてくる家にそっくりだった」と、おっしゃる。
足に絡みつく細い木の幹や枯れ枝をよけながら近づいてみると、確かに水の流れていたことを思いおこさせる浅いＶ字型の地形が見られた。
いよいよ、この空き家は取り壊されることになり、駐車場に様変わりする予定らしい。サルスベリ、ビワ、マツ、ナンテン、ヒマラヤスギ、ウメなど当時からの木々も根こそぎにされるのだろうか。木たちの行方を思いながらカメラのシャッターをきった。「木を切られることは、我子を失うようで寂しい」と、木の所有者はおっしゃるが、天国のＫさんご夫婦にもきっと木の気持ちが届いているにちがいない。』［「川越、仙波町見て歩記」より］

●D22「○○家裏山」
『○○家裏山は、鬱蒼と樹木が生い茂り山の下から泉となって湧いていたという。町内に住む年輩の婦人から、ここで洗濯や、野菜洗いをした経験を持つ人もいらっしゃると聞く。もともと、山裾は、駐車場近くまでひろがっていたそうである。
夏、サイダーや、西瓜、瓜を持ってきて、番をしながら冷えるのを待った。また、ハヤがいても誰も捕ろうとはしなかった。今では、見ることのむずかしい、カワセミ、シギ、キバタキ、三光鳥などが、水を求めてやってきた。

D22

ご当主の、お話によると十年程前、この場所が市の保存樹林に指定されたそうだ。ケヤキに混じって常緑樹も何本かある。カエデ、アオキ、タラノキ、熊笹も大木の下にみられる。また、林の中には、一人では、かかえきれないほどの苔むした切り株があちこちにあり、年輪を感じさせてくれる。傾斜ばかりと思っていたら、高い木々にすっぽり覆われた平坦な場所もあった。
今、水は、かろうじて、木の根の下から流れ落ち、山裾と宅地の間を縫うように、清々しい水音を響かせながら流れ続けている。
開発が進み、地下を通る水の流れ（水脈）が、寸断されると湧き水は絶えてしまうという。』［「川越、仙波町見て歩記」より］
【市】モニタリング地点。

▲D23「寺の下洗濯場（長徳寺東）」

▲D24「芹田用水」

『芹田の水は、豊富な水量で、あふれるばかりに水面を被っていた。その名のごとく、芹がつくられ、青々と茂みを見せていたそうだ。そして、茂みのなかには、水鶏、鴨などがいた。巣の中の卵捜しも、当時の子供たちの遊びであった。また、ここで、捕れる鰻は、直ちに、夕べの食卓に登場し、あまり口にすることのなかった魚に変わる貴重なタンパク源であり、最高の御馳走であったという。こどもも大人に劣らず、立派な働き手であったともいえそうだ。』［「川越、仙波町見て歩記」より］

▲D25「仙波4丁目」

仙波4丁目9番地3の側に道と水路があったが水路が道路になり湧水は出なくなった。学校から帰えって来て、沢ガニを良く取った思い出あり。

▲D26「16号バイパス」

昭和40年頃までは、池があり湧水が出て廻りの水田に水を入れて居たが、16号バイパスが出来て池も埋まって今では出て居ない。

▲D27「三角足洗い場兼洗濯場、新河岸川（仙波3-4丁目）」

『氷川神社の鳥居のそばに、高さ2メートルほどの記念碑がある。大仙波土地改良の竣工記念の碑である。「暗渠排水事業」の文字が刻まれている。起工、昭和34年2月、およそ二年がかりの工事で、昭和36年3月に完成をみている。地下に管を設け、高台からの流れ落ちる水、溜まった涌き水、などの排水工事であった。もともと、この碑は、ここ三角の足洗い場兼洗濯場にあった。交通の妨げにでもなるという理由からか、氷川神社境内に移動されたようだ。氷川神社下と長徳寺奥付近の両方向から流れ集まってきた。水量も多く、たえず綺麗な水が流れていたというから、絶好の洗濯場であったにしがいない。現在は、すぐそばまで住宅が押しせまってきている。大きな洗い場を囲っていた石堀の部分がかすかに残っているのがみられる程度だ。田や畑仕事を終えた人々がこの場で泥を落として家路に急いだにちがいない。』［「川越、仙波町見て歩記」より］

昔はこれら（D18～D27.5）の所から大量の水が流れ出、大仙波の水田全面をうるおしていた。赤間川の改修により湧水は大量に赤間川に流れ、うなぎなども登って来た。その後宅地化が進み道路建設、下水道の工事などにより水道（みずみち）が止められ、破壊され分断され、止まってしまった。

又地下水は低くなり、ますます湧水の量は減って来た。流れが少なくなると、ゴミ、土砂がたまり、流れが止まってしまう。しかし今でも流れ、湧出している所があれば改修して流れるようにすれば枯れることはないのではないか。

▲D28「氷川神社下大池、氷川神社裏（仙波）」

子供の頃から市街地中心に住居して居りましたので直接湧水の思い出はありませんが年に何回かは5・6人で仙波の滝へ行こうと連れ立って遊びに行った事は有ります。滝といっても氷川神社の山からの湧水が下の溜池へ2本か3本かの土管を伝って落ちてくるという簡単なものだったが、街の我々には珍しくその水を何回も飲んだ記憶が有ります。溜池も底の小石まで見える澄み切った水で足を入れると感覚がなくなる程の冷たさだった。

最近行って見てすっかり様子が変わって居り、水は勿論出ては居りませんし家が建ってしまって何処なのかその場所も特定出来ない様な変わりようです。

『この池は、夏涼しく水綺麗、浮き草、沼藻が生えていた。日本でお珍しいとげ鮒が居たそうです。』［「川越、仙波町見て歩記」より］

●D29「仙波の滝」

小学生のころ（35年位前）、滝乃園という釣堀の入口の山がわに「ほこら」があり、水が湧いていた。「ほこらは入口が1mくらい奥行きが2mくらいあり、その奥から湧いていた。当時はよく「ほこら」に入り遊んだが、今は埋められていて、入口にあった龍の石碑だけが残っている。

ムサシトミヨ、サワガニ、タナゴ、フナ、ウナギなど魚がたくさんいた。

D29　仙波の滝

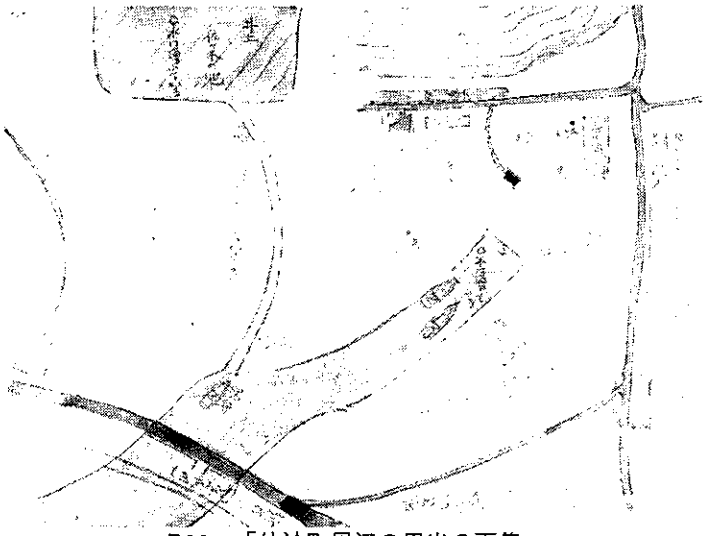
子供の頃、仙波下の赤間川近辺の小川に魚採りなどに出かけ家への帰りの途中の湧水で汚れた手足又はバケツの中の汚れた水（魚がアップアップしている）を変えたこと、ならびに湧水の所で沢ガニが採れた当時が懐かしく想い出されます。
【市】船着場跡と佐々木の池からの合流部がモニタリング地点。

●D30「雨水排水路」
【市】雨水排水路の底の四角にくり抜き砂利が敷いてある部分で湧いていることがあります。また、調整池でも湧いています。モニタリング地点。

▲D31,32「今福川」
今福川は不老川の支流ですが、源流は今福の明見院より南西へ100mくらい行った竹林の所です。ここと、関越道のすぐ東側は、夏、雨がたくさん降った後には今でも湧き出しています。

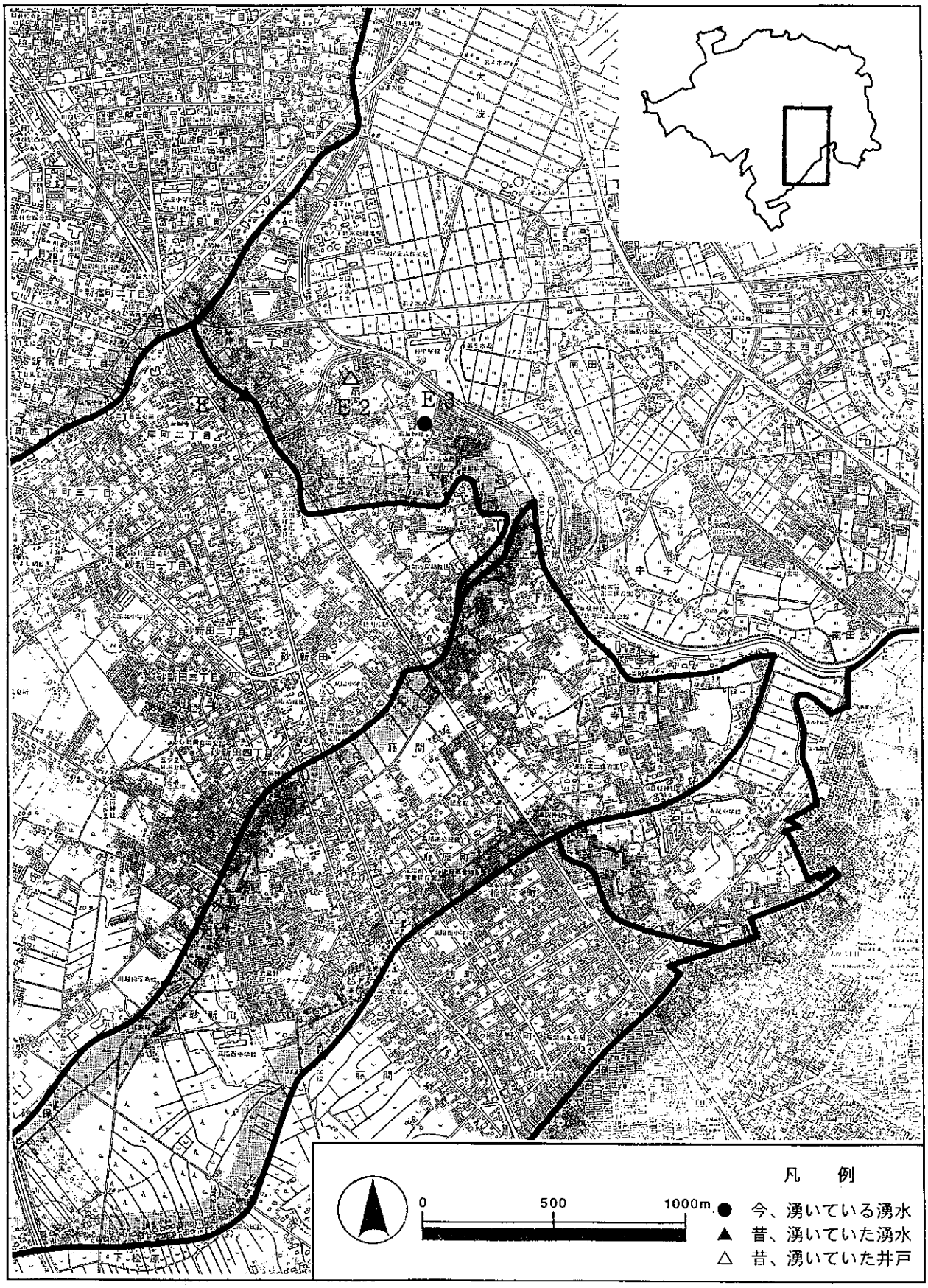
D13　水引き用の水車

D16　「校注武蔵三芳野名勝図会
（川越市立図書館発行）」より


D29　「仙波町周辺の思出の画集
（柳澤善雄制作）」より

D30　雨水排水路

E　不老川面（武蔵野台地）



不老川面（武蔵野台地）湧水分布図

E　不老川面（武蔵野台地）

▲E1「東上線わき」

△E2「自噴井戸」

子供の頃不老川の合流付近で網で魚とりをして遊んだあと、自噴井戸で水を飲んだり、手足を洗ったりした思い出があります。

●E3「弁天池（砂）」

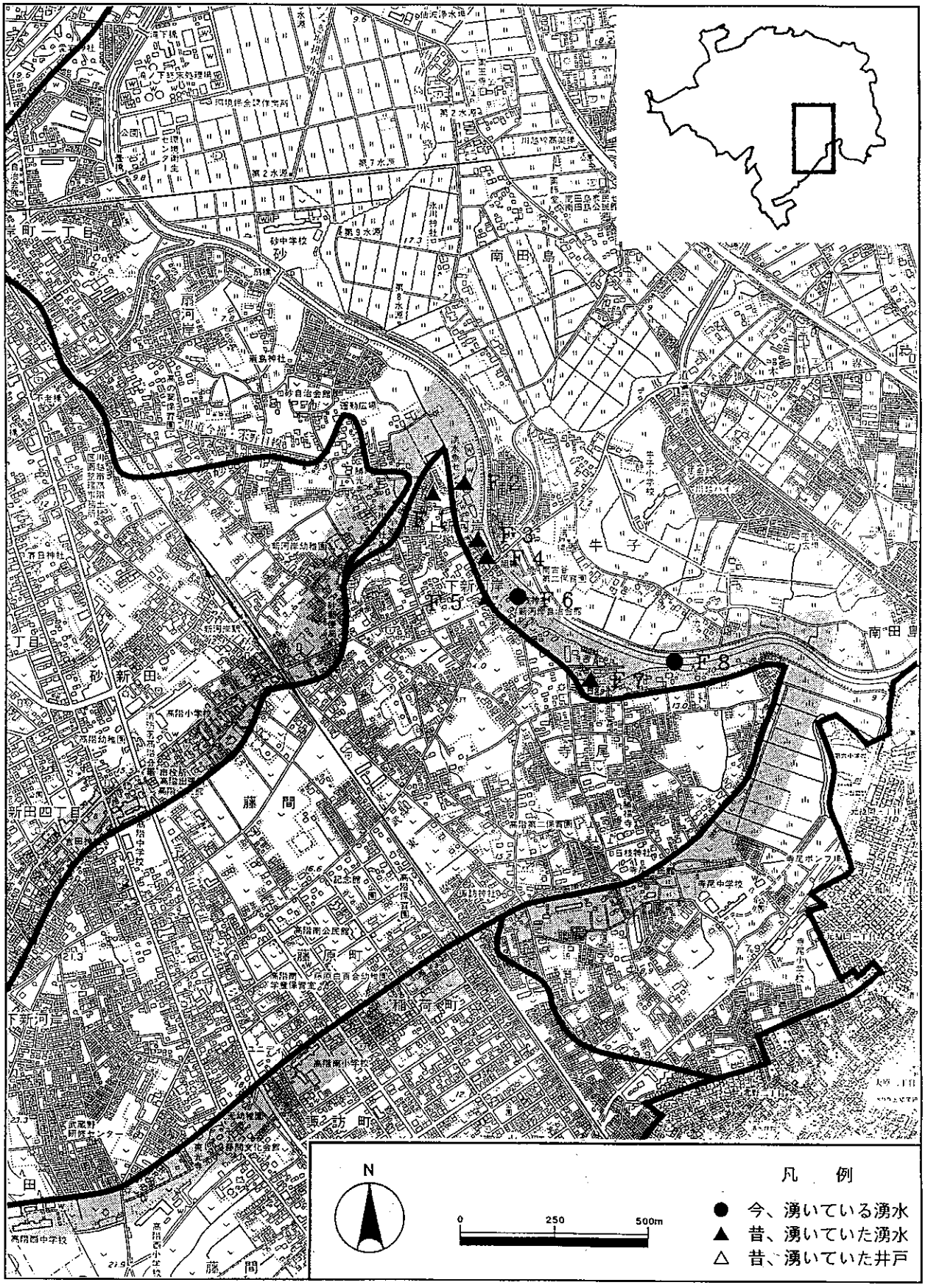
弁天池は透きとおった水の中で砂がもくもくして湧き出している様子を思い出します。

魚も泳いでたり、白い蛇が弁天様に住んでいたり、周囲は田んぼや水路もあり、今から思うと自然の豊富なよい頃だったと思います。

【市】モニタリング地点。

E3　弁天池

F　寺尾台（武蔵野台地）



寺尾台（武蔵野台地）湧水分布図

F　寺尾台（武蔵野台地）

▲F1～5「新河岸下流」

今と昔の湧水についてのお手紙を頂き私の幼いころを思い出し懐かしく筆を取りました。私の小学校時代には新河岸地区にも隣光園（F1）、おつま池（F2）、○○○○氏宅（F3）（スミヤ薬局）前の出水、○○○○氏宅（F4）（麻屋）裏の出水、○○○○氏宅（F5）（伊勢安）前の出水、日枝神社に2ヶ所の出水、計7ヵ所に湧水地がありました。当時スミヤ薬局さんはお酢の製造をしており毎日のように出水にてお酢のビンを女子工員が洗っておりました。良く出水と言う言葉が使われますが湧水のことで約1メートル四方の升を上から下に2個から5個つなぎ合わせて上の升は野菜やお米をといだり又は西瓜や瓜を冷やしたり下の方の升は洗濯物や農作業の道具等の洗い場になっておりました。出水とは私たちの生活に密着した素晴らしいコミニケーションの場でもあったようです。

小学校の頃の私も毎朝歯ブラシと手拭いをもって顔を洗いに通いました。冬は水が温かく夏は冷たく自宅の井戸水で洗うのとは又違った素晴らしい一日の始まりでした。小石をそっと手で動かすと小石の下から沢蟹が逃げてゆく姿もみうけられ、周りを見ればトンボのやごが露草の裏にしっかりつかまり脱皮している姿、もう脱皮を終え朝日に羽を思う存分あて此れから飛び出そうとしている姿、本当に懐かしく思っております。

今では隣光園は埋め立てられ、おつま池はつり堀となり現在でも釜場から水が湧いているようです。出水の5ヵ所もひとつ枯れふたつ枯れ現在では一か所だけが雨量の多い後日、一ヵ月、二ヵ月位湧き出ているようですが長続きしません。私たちの大事な自然環境が少しづつ無くなっていくのは非常に残念ですが新河岸商栄会の皆様が新河岸川に舟を浮かべお年寄りの人達や子供たちを乗せ川下りやら四つ手小屋を造ったりして地域の活性化をはかり又新河岸地区の故郷づくりの為に一生懸命頑張っていきます。

●F6「日枝神社」

夏、顔を洗った思い出がある。

【市】普段は湧いていませんが、平成9年度は10月に湧きだしているのを確認しています。モニタリング地点。

▲F7「○○氏宅裏の窪地」

ザリガニ釣りを楽しんだ。○○氏の敷地らしく、よくおこられた。その他、下新河岸の日枝神社から下流、寺尾404辺りまでの寺尾側の土手には、数ヶ所水がしみ出ていた。

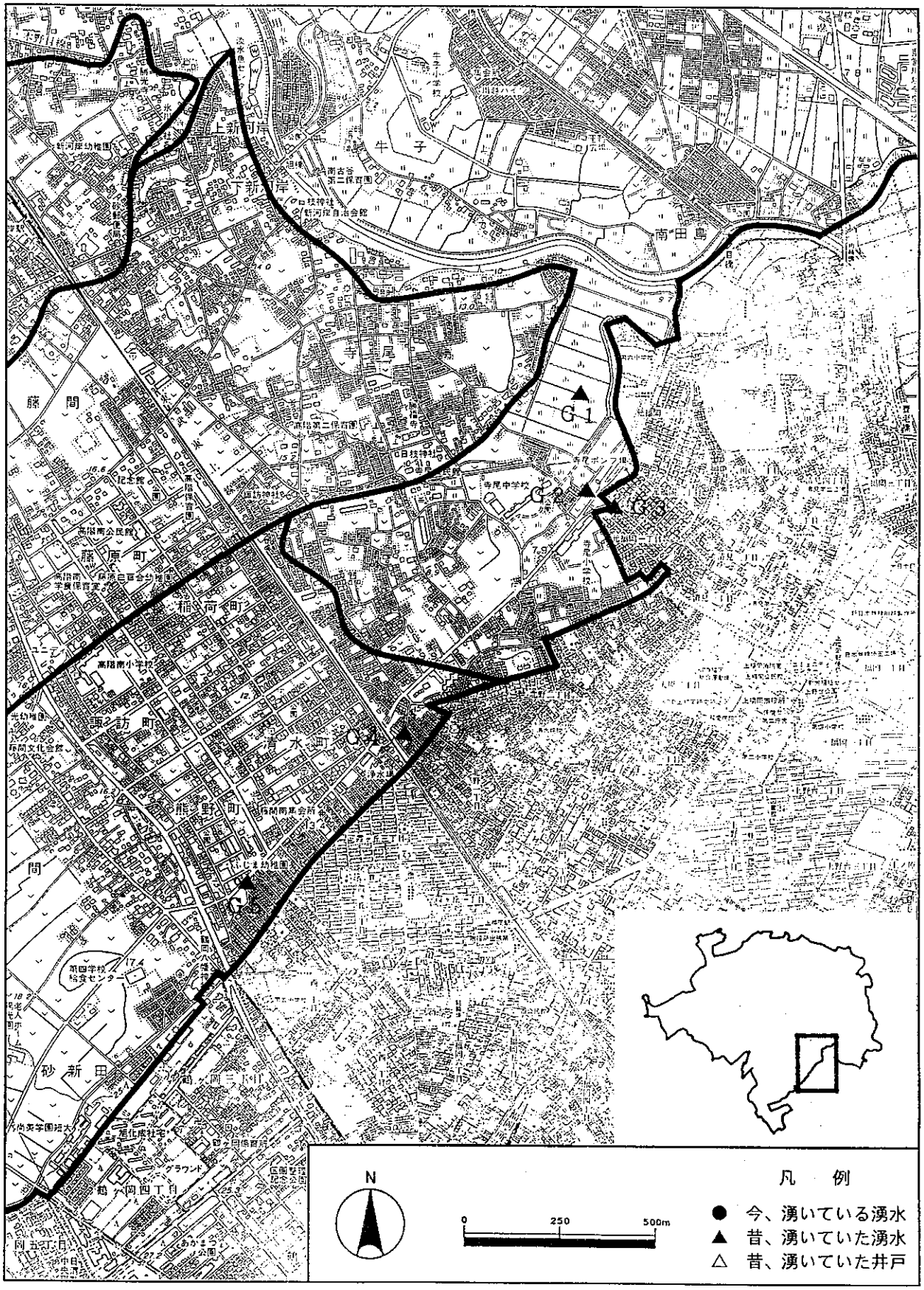
●F8「新河岸川岸辺（寺尾）」

【市】新河岸川の台地側の河川敷では、地面のいたる所でしみだしています。モニタリング地点。

F6　日枝神社

F8　新河岸川岸辺

G　大井台（武蔵野台地）



大井台（武蔵野台地）湧水分布図

G　大井台（武蔵野台地）

▲G1「寺尾中学校付近」

広く沼になっていて湧いているところは深く、子供が泳いでいた。近くの人は舟で置針をして鮒、鰻等を捕っていた。

▲G2「寺尾」

直径10m位の池になっていて「かっくい」と虫の網で冬泥の中にいる鮒等捕った。

▲G3「寺尾」

昭和4、5年頃。湧いているところは判らないが水量が多く「テレビ」で見た「わさび田」のように砂利の中に芹が生えてきれいで、近くの家では貫板で作った生簀で鯉の養殖をしていた。新河岸川が増水すると水路を「どじょう」や小魚が登ってくるので「うけ」を設けて捕ったり、さらに増水すると泳いで遊んだことがある。

先日67年ぶりに現場を見たが、当時の面影はなかったが水路に水が流れていたので懐かしかった。

昭和4、5年頃。現場に行ったことがあるが、湧水について記憶がないので当時を知る人に聞くと略図の3ヶ所と寺尾小の南側崖下の通称「清水下」と呼んでいたところから清水が湧いていたと言う。

「清水下」は崖下に穴がありその奥から湧いていて蟹などがいたので子供達の遊場となっていた。

田圃には突抜井戸が数ヶ所掘ってあって水が噴き出していた。

▲G4「東上線東側」

東上線東側の斜面からも湧いていた。

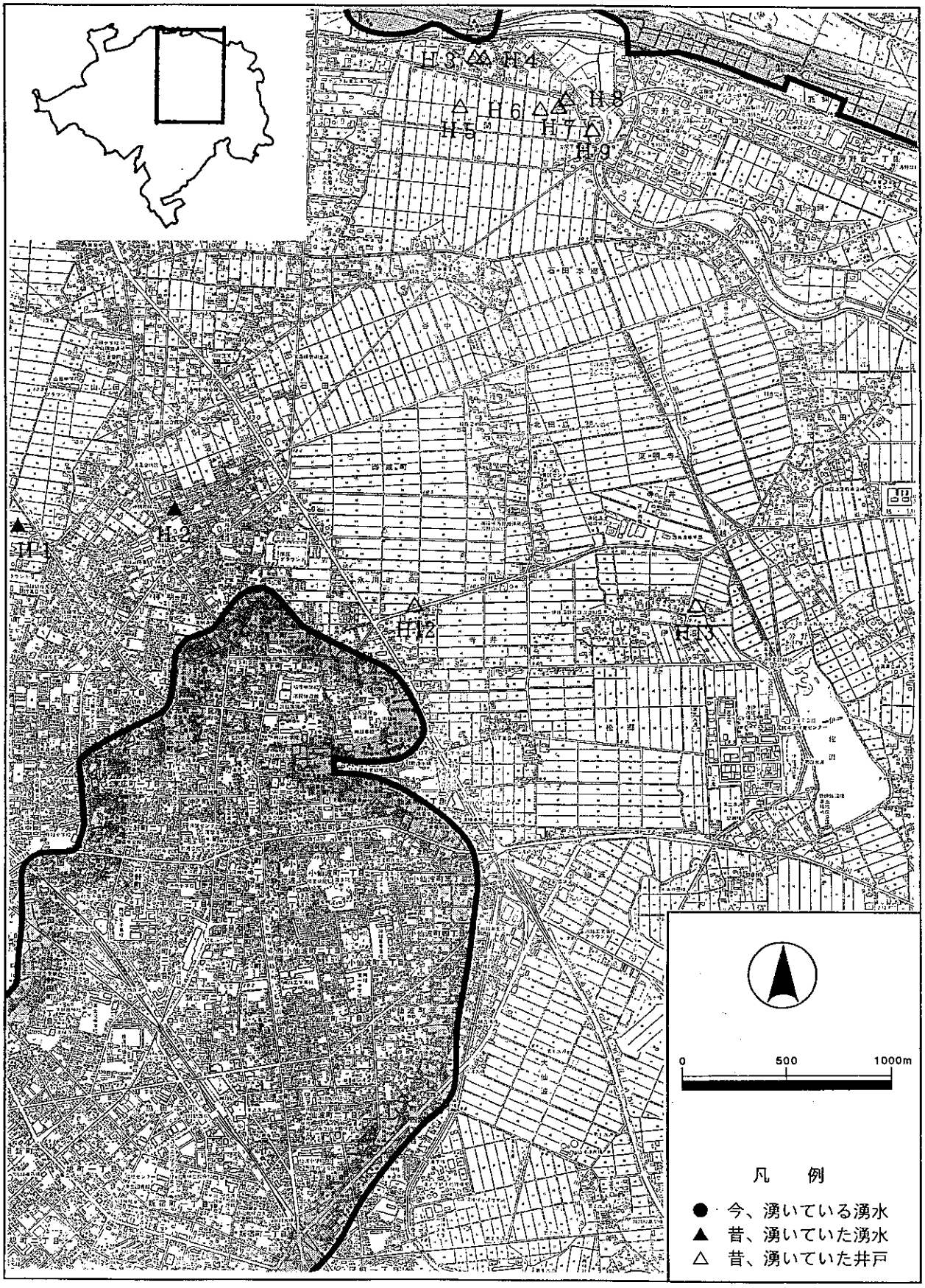
▲G5「並木通り付近」

熊野町を東西に通っている並木通りには昔、中福の方からの堀があった。堀の沿って南側は茶畑の斜面だったので所々湧いていた。何年かに1回、雨の多い年には秋になるとかなりの量が湧いていた。

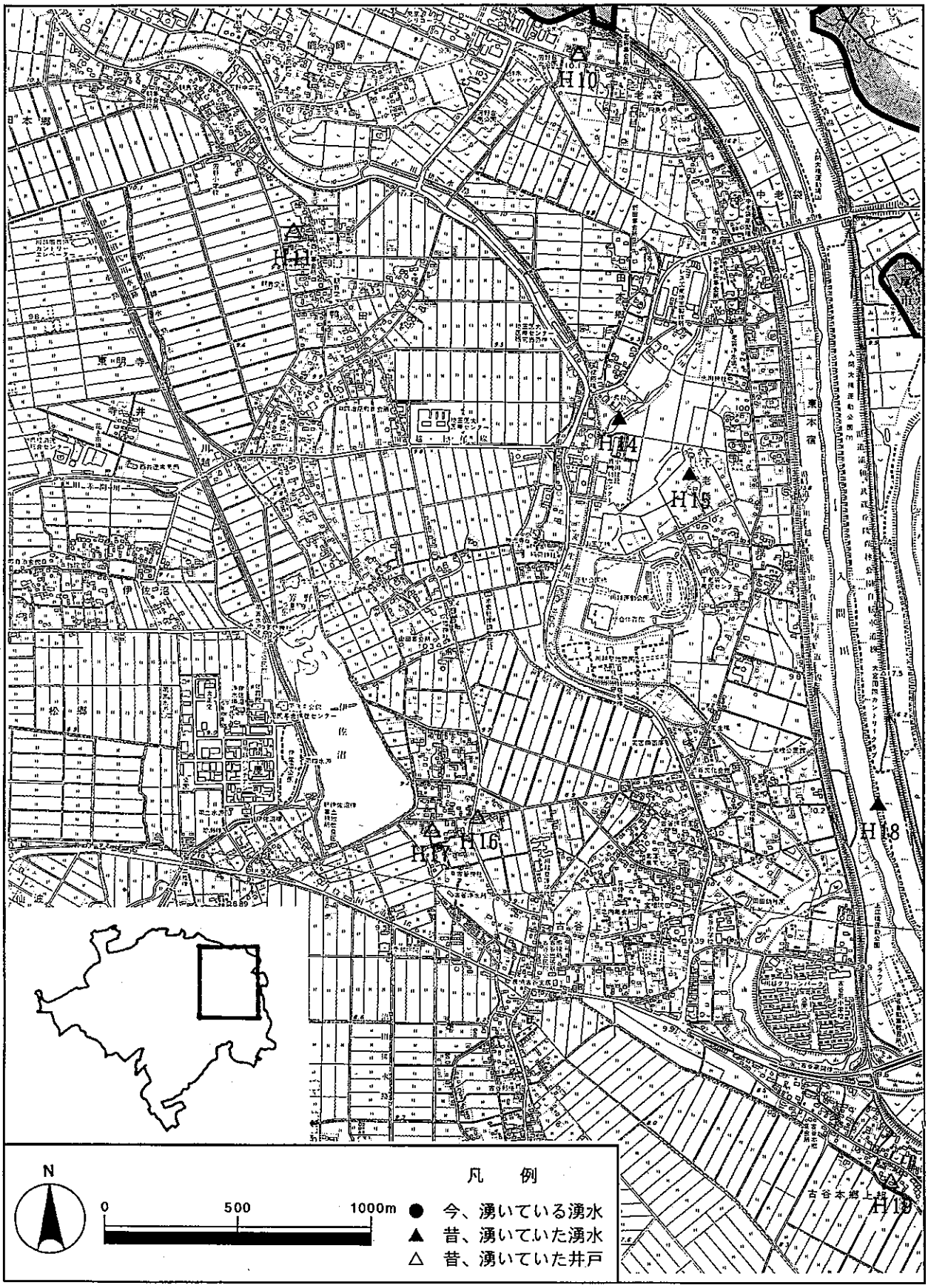
川越街道から並木通りを150mぐらい入った右側は熊ノ腰という地名で、山側から湧いていた記憶がある。

藤間南の区画整理があった昭和40年ごろまで湧いていたと思う。

H　荒川低地



荒川低地湧水分布図（1）


H10
H11
H14
H15
H16
H17
H18
H19
N
0
500
1000m
凡　例
今、湧いている湧水
昔、湧いていた湧水
昔、湧いていた井戸

荒川低地湧水分布図（2）

H21
H22
H23
H29
H30
H20
H24
H28
H27
H25
H26
H31
H32
凡　例
今、湧いている湧水
昔、湧いていた湧水
昔、湧いていた井戸
0
250
500m

荒川低地湧水分布図（3）

▲H1「パイオニア敷地内」

昭和20年代までかなり広い湧水地があり、冬期になると、水温が比較的暖かいため、池にはウナギ、ナマズ、マブナ等多く生息していました。夏でも池の水は底まで澄んでおり、クロモが繁茂し湧出する水はかなり豊富で用水路に流れる溝には湧水地を好むクレソンが流れを覆うほどでした。

当時は周辺は水田で勿論建物など全くありません。魚もよく釣れました。現在は見る影もありません（広さ3畝程か）少年の頃の思い出（俗称釜）。

昭和21年頃山田小学校の帰りに大排水の端の農道を下校するとき、上記の湧水の出ていた池の周りへ寄って、いっぱい空かんの捨ててある所等のものをいじったりしました。底なし池の様な池で周りの空かん等をいじって、人差し指に傷が出来て、50年位たった今でも傷が残っていて、その頃の事を思い出します。

▲H2「田島堀（神明町）」

湧水と言うと、記憶は定かでないが、小学校の頃の思い出が浮かんでまいります。友達4～5人で田島堀りに網を持って魚取りに行きました（主に、鮒、どじょう、なまず、うなぎ、ぎん魚、ななご）特に夏休みです。農家の田んぼに水を引くために幾つかの堰があり、そこで水浴びをし、時には川上より農家の方が田んぼに人糞を蒔き、その桶を洗いアンモニアにより茶色化した新聞紙が浮きながら流れて来ました。一斉に丘に上がり、流れて行くのを待ち、又、水浴びと、そして堰の下で魚取りに夢中になり、喉が乾くと湧水で喉を潤した思い出があります。特に姉が東京で働いておりました。家に帰り井戸水をのみ川越の水は美味しいと良く話されました。

△H3「○○○○氏宅自噴井戸」

△H4「○○○○氏宅自噴井戸」

△H5「西浦626-1自噴井戸」

△H6「上の前491-1自噴井戸」

△H7「○○○○氏西側自噴井戸」

△H8「○○○○氏宅自噴井戸」

農業用水路は1年中湧いており、田植え前には”火ぼり”によりどじょう取りに出かけたものである。

12月末「おかま様」として用水で「どじょう」を取り年神様に供えたものである。

春先水が温むので川せりが早く育つのでとったものである。

1年中魚がとれた思い出がある

「上の前」の井戸でセリつみをしており切り出しナイフを入れたら沈んでしまった。昭和30年頃井戸を掘りなおしたときナイフが出てきてとてもなつかしかった。

菅間の伊佐沼代用水に97年10月5日朝、川セミが飛来を確認しました。20年以前に見て以来のことでとてもうれしく思います。

△H9「菅間緑地内自噴井戸」

現在、菅間緑地の水源としてポンプアップしている井戸は、昔自噴していたが、昭和20年代前半で湧かなくなっている。

冬になると水温が高く　朝方湯気がたちのぼっていたのがなつかしかった。

井戸の近所は田んぼに水が溜まり　氷すべりをして遊んだ。

△H10「○○氏宅」

小学生の頃、今の芳野台工業団地付近で遊んだ際、喉が渇いた時、浅井戸の水は飲むなと言われていたので、井戸の自噴していた○○氏の井戸水を飲ませてもらった。

△H11「○○○○氏宅（鴨田）」

明治時代の30間井戸と戦前の60間井戸があり、昭和33年ごろまで自噴していた。

△H12「○○○○氏宅」

上尾県道沿いの新雪には、昔地面より約60㎝くらいまで水が吹き出ていた井戸があった。冷たくておいしい水であった。夏、赤間川や、伊佐沼で魚などとって遊んだ帰りにはここによって冷たい水を飲んで渇きを癒した。（私が子供の頃のこと）

【市】○○氏の話では、昭和23年に掘り10年ぐらいは噴いていて、アイスキャンディ使用していたそうです。深さは100ｍ。今はない。

△H13「○○○○氏宅」

市の浄水場ができた後も井戸は湧き出していたが、そのうち農業用の井戸を掘るようになって出なくなった記憶があります。

○○氏の井戸はこの地域では最後の方まで出ていたらしい。

▲H14「灰俵」

▲H15「○○○○氏宅北」

昭和20年頃まで湧水、その水で池をつくり鯉を飼育した。ポンプで汲み上げ生活用水として使用、現在は水が湧かない。

△H16「○○○○氏宅」

水田耕作用兼家庭用、深さ110ｍ（60～61間）

大正12年9月1日関東大震災により自然湧水量に若干影響を来たし、その後昭和33年頃竹樋に鉄管樋の補修工事を施したが、その後自然湧水不能となる。

△H17「○○○○氏宅」

川魚卸商業用兼家庭用、深さ110ｍ（60～61間）

大正12年9月1日関東大震災により自然湧水量に若干影響を来たし、その後昭和30年代に入り、深井戸水の取水が行なわれるようになってから自然湧水が不能となる。

▲H18「藏根」

昔、入間川は今より上流で荒川と合流していた。昭和33か34年頃、蔵根地内の、入間川左岸の護岸工事（コンクリート）際に川の岸に近い部分で湧水が湧いていて、工事に支障があった。

△H19「○○○○氏宅」

S.20年中頃まで噴き出していたが、付近で同じような井戸が4、5軒あった。そのうち手おしポンプになり、今はポンプでくみ上げ池の水に使っている。庭ほじると1.5～2.5尺で水が出る。

△H20「○○○○氏宅」

約2ｍ位、吹き上げて滝のように出ていた。昭和24～5年頃急に出なくなってしまった。水の音で眠れない毎日で嫁に来てすぐの頃の話。井戸のまわりにはコンクリートの水そう3段があり、その下は、池となっており、鯉が30匹位いた。近所の人がおいしい水でよくもらいに来た。

△H21「○○○○氏宅」

35～40年頃まで湧いていた。60間（けん）井戸と言われ、当時並木では12ヶ所井戸があり毎日吹き出していた。仙波に上水場が出来てだめになってしまった。おいしい水であった。村の祭の（天王様）で皆が水を飲みに来たり、氷川神社（並木）にあげていた。

△H22「○○○○氏宅」

駅前では駅とここだけしか井戸がなく、湧水も25～6年頃までよく出ていた。うまい水であり駅を利用する人も水を飲みに寄っていた。急に出なくなってしまい、そのままその場所は、放置しておいたが段々家が建てられ廃止してしまった。

△H23「○○○○氏宅」

昔は2～3メートルの高さで湧き出していた。前の道を通る人が入って来てよく水を飲んでいった。飲み水や風呂水に利用し昼間商店でアイスを作る為、保健所に水を持っていって許可を取ってアイスを売り歩いた。水はおいしかった。仙波に上水場が出来、運転を始めた日に出なくなったが今もそのまま残してある。

△H24「○○○○氏宅」
ものすごい勢いで湧出していた。2～3メートルの高さに吹き出していた。すぐ脇に大きな池があり魚がかなりいた。家で利用したり田んぼに使っていた。今も当時のままになっており池だけ小さくなっている。昭和40年頃急に出なくなってしまった。仙波上水場で水を多量に汲み上げているので出なくなった様である。水はおいしかった。近所の人がよく来ていた。

△H25「○○○○氏宅」
子供の頃から家の脇の井戸から水が湧き出していた。食器洗いや風呂の水等に水に困った事はなし。近所の家から毎日水汲みに夕方来ていた。祭り（天王様）の時、全員が休憩して水を飲む家となっていた。昭和40年頃、出なくなってしまったがそのままにしてある。

△H26「○○○○氏宅」
当時は、何軒も井戸がなく近所の人も水をもらいに来ていた。水は1～2メートル位湧水が吹き出していた。35～6年頃出なくなってしまい廃止してしまい今は、跡だけあるが何もない。おいしい水で夏は、冷たく冬は暖かい水であった。

△H27「○○○○氏宅（並木の大くす）」
子供の頃は、井戸から水が湧いていた庭に池がありその中や家の飲水、風呂そして田んぼに使っていた。2メートル位高く、吹き上げていたが段々小さくなり30年頃、竹竿をつないで中を掃除していた。40年頃出なくなりポンプをつけて、つい最近まで使用していたが財産処分の時に埋めてしまった。

△H28「○○○○氏宅」
長男が昭和26年に生まれたが、今まで出ていた井戸水が出なくなってしまい苦労した。それまでは、家で全部利用出来て便利であった。今は、穴だけ残してあるが当時のものは何も残っていない。

△H29「○○○○氏宅」
すこし小高くなった井戸から水が約2メートル位の高さに湧出していた。井戸の前に池があり魚がいっぱいおり家の中の飲み水や風呂水に利用していたおいしい水であった。60間（けん）井戸と呼ばれ、近所の人に利用されていた。40年頃上水場が仙波に出来た時出なくなってしまい埋めてしまった。

△H30「○○○○氏宅」
子供の頃から自宅の裏の井戸から水が湧いているのを知っていた。音がうるさい思い出があり1～2メートル位吹き出していた。飲み水、風呂は毎日入っていた。35～6年頃水が出なくなってしまい、その後前庭に、井戸を掘ったがあまり出ず水道になった。

△H31「○○○○氏宅」
前庭に水路が流れていて、そばの井戸から噴きだしていた。

△H32「○○○○氏宅」
S.30年ごろまで井戸からあふれていた。深さ約50m。

「その他」

川越市環境基本計画の中で「湧水の復活」の施策内容がありますが次世代の大勢の人々にも自然の良さを身近で知ってもらう為にも、条件整備を図りながら可能な湧水地から着実に実現を図って欲しいものです。”最近”テレビである人が人（人間）は、今の地球の有する優しさをオブラートで包んでいてくれるからさほど不快さを感じないが更に、自然が失われ荒廃が進むと人は生きていけないという様な意味を語っていたのが印象に残ります。（但し、一部の国・地域によってはこの限りでありませんが）

最後に、CO_2削減に関する京都会議、身近な問題では三富周辺のダイオキシン等環境についての話題が豊富です。是非、市環境行政担当者の今後、更なるご活躍を期待します。

「その他」

私も知りませんでしたが、大東地区には多くの湧水が存在し、戦国時代はおろか縄文時代の遺跡も湧水有ったればこそ、住居があったということを考えますと、この湧水が現代、一つもその姿が無くなってしまっていることに大きな責任を深く感じています。

入間川の水量の殆どは飲料水でしょうし、工業団地は地下水をどんどん汲み上げていますし、河川の砂利も掘り、水底がどんどん下がり、湧水地は開発でそのすばらしい自然の姿を消していったのでしょう。

社員の中にも幼き頃よく水泳をしたと語ってくれる人も居たりして、懐かしんでもらえました。大東地区には大東地区の歴史を研究している人達も存在しているとこのことで、その人達も湧水に関して市役所へ報告してくださるようです。

「その他」

私は平成8年、忘れられている町内の昔、また新居を求めて転居された新岸町住民にと思い自費出版で岸町物語を発刊しました。その中に湧水に関するところがありますので付箋を付けて、ご趣旨にお応えいたします。小生もとより浅学非才ご活用頂けるかどうか、わかりませんが、住む所の昔、今を知ることは郷土愛につらなるものと思います。従って小中学校の昔のことも文にしてみました。

「その他」

電源開発の付近には湧水はなかったそうですが久保川には何ヶ所か水の中で湧き出ている所があったそうです。昔は川にはきれいな水が流れていた。

大袋新田で大きな池（湧水による）があって子供の頃泳いだことがあった。（場所は詳しく聞いていない）今はない。

【湧水地に見られた生物（寄せられた情報より）】

魚	コイ　ヒゴイ　マゴイ　フナ　マブナ　とげ鮒　タナゴ　ムサシトミヨ　メダカ　ぎん魚　カタッケイ　トゲウオ　ななご　ナマズ　ウナギ　八ツ目鰻　ドジョウ　砂目どじょう
水生生物	カエル　食用蛙　ヤモリ　カニ　サワガニ　ザリガニ　エビ　ミズスマシ　カラスガイ　カワニナ　シジミ　バカガイ
は虫類	ヘビ　蝮
昆虫	カブトムシ　カナブン　アメンボウ　クワガタ　蝉　トンボ　イトアメトンボ　イナゴ　げんごろう　ホタル　ゲンジホタル　ウマオイ　蛾　かいこ
鳥	カワセミ　キバタキ　三光鳥　シギ　白鳥　水鶏　アヒル　カモ　家鴨
植物	マツ　アカマツ　クヌギ　コナラ　ケヤキ　カエデ　杉の木　銀杏の木　ヒマラヤスギ　ウメ　栗　ビワ　サルスベリ　キンモクセイ　桑　アオキ　茶　ナンテン　熊笹　ヨシ　アシ　タラノキ　ちがや　あやめ　イタドリ　クレソン　スツカンボ　セリ　露草　ひがん花　水草　浮き草　クロモ　沼藻

6．湧水に関係する地名

川越市内には、湧水に関係すると思われる地名が多くあります。それらを以下に示します。

湧水に関係すると考えられる地名

地　区	地　　名
本庁管内	清水町　はけ下
山田地区	清水町
	大久保
芳野地区	清水町
	川久保町
古谷地区	丸池　弁財天
	上ヶ谷戸　大ヶ谷戸　前川久保　窪
南古谷地区	久ヶ久保　川久保
高階地区	清水下
	はけ　久保
福原地区	大はけ　砂久保　足ヶ窪　小窪　大窪
大東地区	清水　前堀　長瀞　泥辺
	笹ヶ谷戸　引ヶ谷戸　狢ヶ谷戸　はけ下　欠下　水久保　上久保 中久保　下久保　中村窪　稲荷窪　久保田
霞ヶ関地区	神明渕　亀ヶ渕　竹ヶ渕　毘沙門渕　蟹渕　北女堀　南女堀　瓢箪池 新堀
	倉ヶ谷戸　内ヶ谷戸　鳥ヶ谷戸　隠ヶ谷戸　猿ヶ谷戸　東谷津 西谷津　南谷津　はけ上　はけ附　諏訪久保　水久保　東水久保 北水久保　南久保　大久保　北久保　宮窪　水窪　中窪
名細地区	有泉　溜池　境堀　女堀
	北久保　正里久保　東岩久保　西岩久保　岩田久保　山王久保　水窪

「川越の地名調査報告書（一）（二）」川越市教育委員会より作成

7．水車、弁財天、くりから不動

○水車

かつては数多くの水車があり、湧水による豊富な水を利用して精米、精麦、製粉の加工をしていたが、大正末期から昭和10年頃にかけて石油発動機や電動機の出現により消えていきました。当時を知る手掛かりとしては、各地区で作成している記念誌や内田水車に残されていた大東地区から宮元町にかけての赤間川水車図（明治40年）が残っています。

・本庁　　渡辺（石原）
　　いおりの水車（喜多）
　　水口（宮元）
　　内田（境町）
　　大仙波佐々木の池下流
・名細　　鯨井2軒　真仁田（金堀）（大正末まで）
　　平野（番田）
　　吉田1軒
・霞ヶ関　不明
・大東　　5戸（昭和初年まで）
　　（青木、山下、高野、柳川、巻田、石井、浅田、滝島、仲）
・福原　　4台　霞町付近（大正10年頃まで）

赤間川水車図

○弁財天

七福神のひとつで妙音天ともいい、音楽と弁財などを司るインドの神ですが、多くは水神として祀られています。全部を把握する資料はありませんが、一部としては次のとおりです。

・三光町（経ヶ島弁財天）
・宮下氷川神社境内
・小仙波（龍池弁財天）
・扇河岸厳島神社
・下新河岸日枝神社下
・霞が関厳島神社（弁天社）
・鯨井青林寺内（大弁財天）
・尾崎神社内（洗心弁財天）
・大東東小前（お堂）
・池辺厳島神社

○倶利伽羅（くりから）不動

剣にからみついて、まさにこれを呑もうとする龍が表現されています。不動明王の化身とされていますが、水神視され、造立されたと考えられています。

・白髭神社（吉田）　　1759年（宝暦9年）
・善長寺の薬師堂（豊田本）　1760年（宝暦10年）
・仙波河岸跡（大仙波）　　1906年（明治39年）
　※龍池弁財天にも昔あったという情報があります。

倶利伽羅不動

8．湧水に関係する民話、伝説

「川越の伝説」「続川越の伝説」　川越市教育委員会、昭和56年12月、昭和59年3月

・双子池（小仙波4丁目）
・経ヶ島の弁財天（三光町）
・よな川の小石供養（小仙波2丁目付近）
・人身御供（小仙波2丁目）
・片葉の葦（小仙波2丁目）
・笠幡のだいだらぼっち（笠幡）
・弁天の池（池辺）
・南古谷ところどころ（南田島）
・小池の大蛇（北田島）

「大東百年のあゆみ」　大東百年祭実行委員会、平成5年3月

・梶原の池（池辺）
・オッポリ池（池辺）

「名細郷土誌」　名細郷土誌編集委員会、平成8年3月

・能満寺の片葉の葦（小堤）
・ジイギとバアギ（下小坂）

「鯨井史」　鯨井自治会、昭和58年3月

・養老の泉、地名「小字有泉発祥の伝説（鯨井）」

「ふるさと芳野　そのあゆみ」　記念誌「ふるさと芳野」編集委員会、平成3年8月

・おてい渕（菅間）
・お女郎ヶ渕（鹿飼）

「高階のむかし話」　高階むかし話編集委員会、平成3年3月

・小野小町といねむり塚（藤間）
・新河岸川のむかし（下新河岸）
・おつまが池と鬼げしの花（上新河岸）
・弁天池の不思議（砂）

「川越の伝説」　川越市教育委員会、昭和56年12月

・霧吹きの井戸（郭町2丁目）
・天神洗足の井水（郭町2丁目）

9．湧水に関する市民の取組

湧水に関して、市民による様々な取組が行われています。その一部を紹介します。

○川越市立砂中学校

砂中科学部では、3年間かけて、生徒が聞き込みにより市内全域の湧水調査を行いました。その結果が平成5年11月、読売新聞社主催の日本学生科学賞コンクールで、環境庁長官賞を受賞しています。

○倉林秀子さん

『「人と水のかかわりの大切さを、つくづく感じました」と言う主婦・倉林秀子さん（50歳・仙波町3）。この2月、冊子「川越市仙波町見て歩記－湧き水跡めぐり」（B5版・53ページ）を作りました。昔を知る人の協力を得て調べた瀧池弁天や仙波の滝など12か所の現状ほか、地域にまつわる貴重な話などが収められています。』広報川越（平成9年4月10日号）より

○新河岸川をきれいにする水辺会

活動範囲は不老川の合流地点から川崎橋までの新河岸川。河川敷のゴミ拾い、水辺植物の保護、よみがえらせた5つの湧水地の整備、ホタルの幼虫放流などの活動をしています。

○郷土高階愛好会

ホタルの幼虫飼育や放流地の整備、歳時記づくり、舟運ルート再現などの活動をしています。毎年7月頃、高階公民館の後援で砂自治会館周辺で「ホタル祭り」を開催しています。

○経営懇話会

環境浄化の立場から、歴史的背景もある旧「赤間川の蛍」復活実現に向けて、行政、各種団体とも連携をはかりながら、ホタルの人工飼育、放流、更には市全復活をめざしています。毎年6月末頃、北公民館で「ホタル鑑賞会」を開催しています。

10．湧水に関する本市の施策

○湧水モニタリング（環境部）

一時的に湧いている場所も含め、市内26地点について、湧水状況、水温を年4回観測しています。このうち代表的な3地点（小堤八幡神社、小仙波弁財天、下新河岸日枝神社）については、湧水量を測定しています。

○地下水の涵養

・下水道雨水貯留浸透事業（下水道部）

小学校など公共（公益含む）施設の体育館などに降った雨水を、地下に浸透させています。これまでに川越小学校など３か所に設置しています。

・開発時の雨水対策（建設部、下水道部）

河川の総合治水対策に基づいて、降った雨が一時的に河川に流入しないように、各種開発規模に応じて、浸透桝、浸透トレンチなどの浸透施設の整備を指導しています。

・道路における雨水地下浸透（建設部）

道路整備の際に、浸透式側溝。吸込み槽、連結式浸透ます等を用いて、雨水の地下浸透を図っています。

・家庭用雨水浸透桝（ます）設置の補助（下水道部）

市では、一般家庭の屋根に降った雨水を地下浸透させる雨水浸透桝（ます）を設置しようとする方に、平成9年度から工事費の一部を補助しています。（小型貯留槽の設置も同様）

○地下水利用の制限（県他）

地下水については、県などにより、地下水位の監視、地下水の採取に関する規制、事業所に対する水利用合理化指導などの取組がされています。過去20年間で、工場などによる地下水利用は約半分に減少し、平成8年度では年間約500万㎥の地下水が汲み上げられています。

○湧水地の整備（都市整備部）

第二次川越市総合計画には、「特殊公園として、旧仙波河岸跡地に歴史の面影を残す新河岸川舟運の史跡公園」が施策としてあげられています。

○緑地の保全・緑化の推進（都市整備部）

緑地保全と緑化推進に関する「川越市緑の基本計画」の策定作業が進められています。

現在実施している緑化としては、学校などの公共施設における「公共緑化」、「住民共同緑化活動」に対する苗木の提供、年2回の「苗木配布」があり、さらに平成9年度からは、生け垣設置に対する補助も行っています。

11．まとめ

平成9年10月から12月にかけて、今と昔の湧水に関する情報提供を呼びかけたところ、87名の方々から156ヶ所の湧水地の情報が寄せられました。このうち、現在湧いている場所が26ヶ所、昔湧いていた場所が130ヶ所ありました。また、地域別に見ると、各台地のはずれや入間川扇状地には湧水が124ヶ所、さらに荒川低地には自噴井戸などが32ヶ所見られ、かつては市内全域に渡り水が豊かだった様子が伺えます。

これらの水辺は、ナマズ、うなぎ、沢蟹、シジミを捕まえたり、釣りをしたり、泳いだりする、子供たちにとっての「危険を承知の遊び場」であったり、またアヤメ、せり、おどりこ草、ひがん花等が見られる「四季の野草の花園」、蛍やとんぼが群れ飛び、みずすまし、アメンボウが泳ぎ回る「小さな生き物たちとの共存」の場所、冷たくて美味しい水で喉の渇きをいやし、スイカやナシウリを冷やして食べたり、涼を求めたり、川棚を作りお米を研いだり洗い物をしたりする「私たちの生活に密着した場所」、「すばらしいコミュニケーションの場」、その他、水田用水や水車用水の提供場所であったりして、当時は、全体として「人間生活に不可欠な水との共存」が図られていた時代でありました。

しかしながら、開発により台地がコンクリートで覆われ、身の回りから水たまりが消え、地下水脈（みずみち）が寸断され、昔は当たり前だった私たちの「心の原風景」とも言える「春の小川」、「雑木林」、「原っぱ」などと共に、湧水地は急速に失われていきました。

今回の調査では、幸いにもまだ26ヶ所もの湧水が残っていることがわかりました。入間川扇状地の湧水は入間川の水位の低下により、また荒川低地の自噴井戸は工場用、飲料用、農業用などの地下水の利用状況から昔に戻ることは無理かもしれません、しかし、本市に毎年降りつづける年間1億トン以上の雨水を現在より少しでも多く地下浸透し続けることによって、10年先、20年先になるかも知れませんが、坂戸台地、飯能台地、武蔵野台地のはずれにおいて、現在湧いている所では湧水量が増え、また、かつて湧いていたところが1ヶ所でも多く湧くようになると考えられます。

現在、市民の間では湧水調査やホタルの復活などの取組が行われ、また、市でも環境基本計画に「湧水の復活」を掲げ、雨水の地下浸透事業や緑地の保全等様々な施策を図っています。特に平成9年度から、屋根に降った雨水をを地下浸透させる家庭用雨水浸透桝の補助を始めています。皆さんの家庭でも設置してみてはいかがでしょうか。

市では、これら様々な取組により、貴重な湧水地を次の世代に引き継いでいきたいと考えていますので、ご協力をお願いします。

なお、この湧水調査報告書は、最終的なものではなく、今回の調査で抜けている「現在湧いている場所」や「昔の有名な湧水地」の情報が、さらに寄せられることを期待して作成したものです。引き続き、市民の皆さんの心の中に残されている「貴重な情報」の提供をお待ちしています。

ご協力ありがとうございました。

市民による身近な環境調査

「今と昔の湧水調査」報告書

問い合わせ先

川越市環境部環境保全課
〒350-8601 川越市元町１丁目３番地１
TEL(0492)24-8811（代表）
FAX(0492)25-9800
E-mailアドレス　webmaster@city.kawagoe.saitama.jp
ｲﾝﾀｰﾈｯﾄﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　http://www.city.kawagoe.saitama.jp/

スマイルシティ・川越

R70

この冊子は、古紙利用率70%・白色度70%の再生紙を使用しています。